特226
771

0050878000

0050878-000

特２２６－７７１

豊尋常高等小学校沿革誌

山梨県中巨摩郡豊尋常高等小学校

昭和１１

AHM

豐泰常高等小學校沿革誌

3 特 /
771

特226
771

豐尋常高等小學校沿革誌

御眞影奉安所と校旗

校歌

長校現　原　清

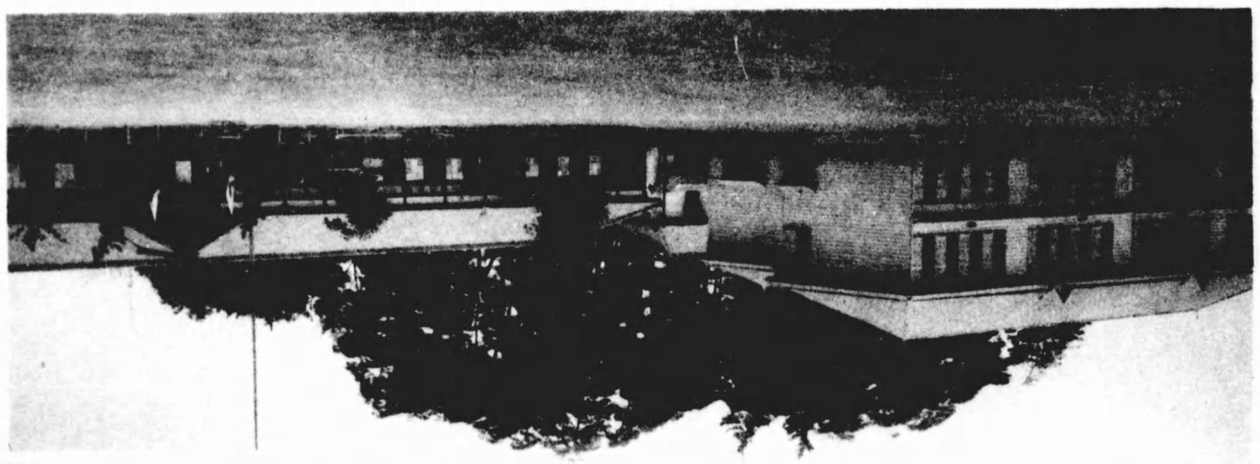
一、
諏訪の社は森深く
我が學び舎の守りなり
清き明るき御姿を
心にうつし學ばなん。

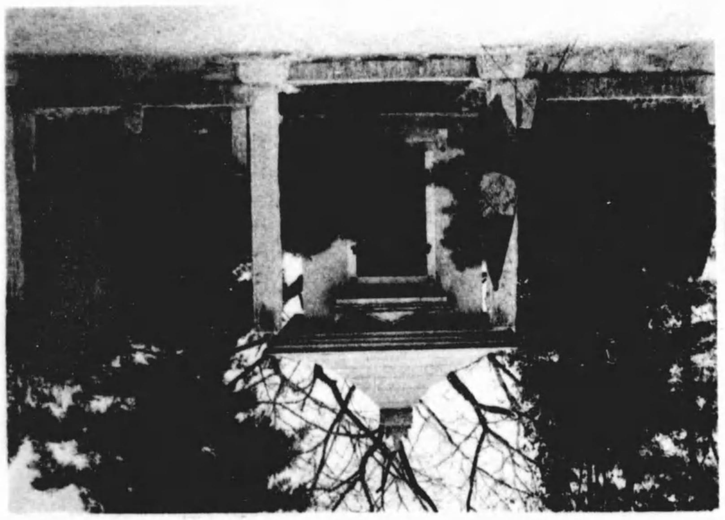
二、
明治のみかど畏くも
諭し給ひし大みこと
誠の道にいそしまん。

三、
遠く續ゆる富士の嶺は
名も尊なる我が鄕の
業をしるす鏡にて
いよよ勵まん諸共に。

長村現　小　光國泉

現校令





目次

一、卷頭寫眞版
御眞影奉安所、校旗、校歌、現校舍、村長、校長、
二、沿革概要……一
三、關係者及學校職員……一
管理村長、學務委員、校長、敎員、校醫
四、沿革の大要……一九
創立前、創立當時、遂年記錄
五、年度別表……一一四
學級、敎員、生徒、卒業生、經費

學制頒布に付被仰出書

人々自ら其身を立て其産を治め其業を昌にして以て其生を遂るゆえんのものは他なし身を脩め智を開き才藝を長ずるによるなり而て其身を脩め智を開き才藝を長ずるは學にあらざれば能はず是れ學校の設あるゆゑんにして日用常行言語書算を初め士官農商百工技藝及び法律政治天文醫療等に至る迄凡人の營むところの事學あらざるはなし人能く其才のあるところに應じ勉勵して之に從事ししかして後初て生を治め産を興し業を昌にするを得べしされば學問は身を立るの財本ともいふべきものにして人たるもの誰か學ばずして可ならんや夫の道路に迷ひ飢餓に陷り家を破り身を喪の徒の如きは畢竟不學よりしてかゝる過ちを生ずるなり從來學校の設ありてより年の歴ること久しといへども或は其道を得ざるよりして人其方向を誤り學問は士人以上の事とし農工商及び婦女子に至つては之を度外におき學問の何物たるを辨せず又士人以上の稀に學ぶものも動もすれば國家の爲にすと唱へ身を立るの基たるを知ずして或は詞章記誦の末に趨り空理虚談の途に陷り其論高尚に似たりといへども之を身に行ひ事に施すこと能ざるもの少からず是すなはち沿襲の習弊にして文明普ねからず才藝の長せずして貧乏破産喪家の徒多きゆゑんなり是故に人たるものは學ばずんばあるべからず之を學ぶには宜しく其旨を誤るべからず之に依て今般文部省に於て學制を定め追々教則をも改正し布告に及ぶべきにつき自今以後一般の人民華士族農工商及婦女子必ず邑に不學の戸なく家に不學の人なからしめん事を期す人の父兄たるもの宜しく此意を體認し其愛育の情を厚くし其子弟をして必ず學に從事せしめざるべからざるものなり

高上の學に至ては其人の材能に任かすといへども幼童の子弟は男女の別なく小學以下に從事せしめざるものは其父兄の越度たるべき事

但從來沿襲の弊學問は士人以上の事とし國家の爲にすと唱ふるを以て學費及其衣食の用に至る迄多く官に依頼し之を給するに非されば學ざる事と思ひ一生を自棄するもの少からず是皆惑へるの甚しきものなり自今以後此等の弊を改め一般の人民他事を拗ち自ら奮て必ず學に從事せしむべき樣心得べき事

右之通被　仰出候條地方官ニ於テ邊隅小民ニ至ル迄不洩樣便宜解釋ヲ加ヘ精細申諭文部省規則ニ隨ヒ學問普及致候樣方法ヲ設可施行事

明治五年壬申七月

太政官

緒　言

本誌は本校創立六十周年記念式を擧行するに當り、過去六十ヶ年の沿革の大要を蒐錄し以て先人の恩に報ひ温故の情を深からしめんとす　本校五千の卒業生は之に依りて舊師の恩を懐想すると共に過ぎし幼童の當時に立ち返り學友と語り合ふことを得れば望外の期する所なり本誌は又本村最近に於ける文化發展の縮圖とも見るべく本村教育經營の跡に鑑み還暦の記念を迎ふると共に反省再思し茲に將來の計畫の資に供せんとす、其の編纂に於て整稿を成さずと雖も意のある所を誌して讀者の諒承を乞ふ。

昭和十一年十月二十五日創立六十周年記念日

豐尋常高等小學校

本校沿革の概要

明治五年太政官學制頒布の旨を體し村人凝議の上翌年十月村内十五所法源寺を校舍に假用し吉田學校と稱せり。

爾後教育稍々進み學童漸く多きを加ふの際藤村縣令の奬學に則り明治九年四月今の地に土木を興し東西十間南北六間の洋風平家建の校舍を新築し同年十月廿五日之が開校の典を擧げ創めて豐小學校と稱す。

明治十八年一月西南に一棟の分館（十八坪）を增築す。

明治十八年一月西南に一棟の分館（十八坪）を增築す。

越えて廿年四月小學校令改正の爲尋常科を置き豐尋常小學校と更め、同年八月別に廿七箇村と聯合し西部高等小學校を本校内に新設し翌年八月更に地を南西に相し分館一棟（廿四坪）を增築するに至れり。

明治廿三年十二月教育に關する御勅語謄本を下賜せらる。

明治廿五年七月從來の西部高等小學校組合を解き、更に西野外四ヶ村と組合高等小學校を西野村に設定す。

明治廿六年五月　明治天皇照憲皇太后兩陛下の御眞影を下賜せらる。

爾來就學兒童は年と共に增加し校舍益々狹隘を告ぐ。偶々義務教育年限延長の期に會す。斷然大工事

を起し校地を東南に擴張し明治四十年六月着工二宇形平屋建校舍（三百八十二坪強）を增築し翌年四月三日之が增築落成式を擧行せり。

是に於て西野なる組合高等小學校と分離し明治四十一年四月本校に高等科を併置して豊尋常高等小學校と改稱せり。

大正四年四月十三日本校兒童帽子徽章を制定す（梨花中に豊）

大正四年十月　大正天皇同六年二月皇太后兩陛下の御眞影を下賜せられ大正五年三月御眞影奉安所を創設す。

大正五年一月一日校旗樹立式を擧行す。

曩に輪換の美を誇れる校舍も時勢の進運に伴ひ兒童の增加に隨ひ今や漸く狹隘を告げたるにより、昭和三年八月工事を起し、年內に二階建スレート葺敎室（二百五十七坪）一棟を增築し、昭和四年四月廿一日增築落成式典を擧行す。

昭和三年十月廿日　天皇皇后兩陛下の御眞影を下賜せらる。

昭和四年十月校舍增築に伴ひ校庭狹隘を感ずるに至れるを以つて南方に千二百四十六坪を擴張す。

昭和五年三月廿九日施設經營優良なりと認められ、山梨縣より助成金五十圓を交附せらる。

昭和六年四月十三日御眞影を奉還し仝年四月十八日拜戴す。

關係者及學校職員

歷代管理村長

就職年月日	職名	氏名	退職年月日	在職年月
明治二二、八、	管理村長	澤登助重郎	明治二四、一〇、	二、三
明治二四、一二、	〃	深澤登喜始	明治二八、一二、	四、
明治二九、一、	〃	澤登助重郎	明治三〇、四、	一、四
明治三〇、五、	〃	中島庄兵衛	明治三一、八、	一、四
明治三一、九、	〃	保坂善右衛門	明治三五、九、	四、
明治三五、九、	〃	小笠原寛	大正三、九、	一二、
大正三、九、	〃	小泉代右衛門	大正四、七、	一一
大正四、八、	〃	齋藤午吉	大正五、一二、	一、六
大正六、一、	〃	河野富家	大正一〇、一、	四、
大正一〇、一、	〃	中島勘吉	大正一四、一、二四	四、
大正一四、一、二八	〃	河野伴右衛門	大正二、二、一六	二、二
昭和二、二、一八	〃	齋藤代藏	大正三、一、一九	一、
昭和三、一、二三	〃	花輪奧太郎	大正七、一、二二	四、
昭和七、一、二三	〃	澤登敬重	大正一一、一、二二	四、
昭和一一、一、二三	〃	小泉國光		

學務委員

就職年月日	職名	氏名	退職年月日	在職年月
〃	事務掛	澤登助重郎		
〃	〃	河野宗左衛門		
〃	〃	中込仲右衛門		

〃	幹事	佐久間半四郎	明治二九、一〇、一	四、一
〃	〃	河野佐太郎	〃	〃
〃	學務委員	太田勉	明治二五、一〇、二	〃
〃	〃	名取傳之丈	〃	〃
〃	〃	河野清太郎	〃	〃
〃	〃	五味正資	〃	〃
〃	〃	竹野正春	〃	〃
〃	〃	小笠原寛	明治二九、一〇、一五	〃
〃	〃	名取豊七	〃	〃
〃	〃	五味九之吉	明治三二、八、三〇	五、一一
〃	〃	名取傳之丈	明治三五、八、三〇	二、八
〃	〃	竹野正春	〃	〃
〃	〃	花輪眞重郎	明治三〇、四、五	〃
〃	〃	花輪德太郎	明治三五、八、三〇	五、一一
〃	〃	五味正資	明治三五、八、三〇	四、一一
〃	〃	花輪傳兵衛	明治三八、七、一六	三、一一
〃	〃	五味九之吉	明治三六、五、六	三、一一
〃	〃	河野富家	明治三七、五、二〇	三、一二
〃	〃	齋藤才治郎	明治三八、七、一六	四、一
〃	〃	三枝正哉	明治三六、一〇、三〇	二、四
〃	〃	竹野正春	明治三七、七、一六	四、一
〃	〃	中島勘吉	明治三六、五、六	二、四
〃	〃	山田辰三郎	明治三八、七、一六	四、一

〃	〃	河野伴右衛門	明治三七、八、一三	三、一〇
〃	〃	花輪傳兵衛	明治三九、五、一五	三、九
〃	〃	齋藤才次郎	〃	〃
〃	〃	五味九之吉	〃	〃
〃	〃	名取茂重郎	〃	〃
〃	〃	花輪惠重郎	〃	〃
〃	〃	齋藤惠重	〃	〃
〃	〃	竹野正春	〃	〃
〃	〃	山田辰三郎	〃	〃
〃	〃	中島勘吉	〃	〃
〃	〃	河野伴右衛門	明治四〇、四、二四	四、一二
〃	〃	切刀彦重郎	〃	〃
〃	〃	中島勘吉	明治四三、六、二七	四、一二
〃	〃	河野富家	〃	〃
〃	〃	花輪惠十郎	〃	〃
〃	〃	齋藤清十郎	〃	〃
〃	〃	河野伴右衛門	明治四四、四、一	四、一
〃	〃	保坂五三郎	大正二、一一、三	〃
〃	〃	山田辰三郎	明治四三、六、二七	四、一二
〃	〃	鮎川豊三郎	大正三、四、一五	四、一二
〃	〃	中島勘吉	大正三、一〇、二九	四、一二
〃	〃	河野豊佐	〃	〃
〃	〃	澤登直哉	〃	〃

〃	〃	河野伴右衛門	明治四三、一二、一一	一、一〇
〃	〃	花輪傳兵衛	明治四三、一一、二八	三、九
〃	〃	齋藤才次郎	明治四一、四、二四	二、二
〃	〃	五味九之吉	明治四三、五、一四	四、二
〃	〃	名取茂重郎	〃	〃
〃	〃	花輪惠重郎	〃	〃
〃	〃	齋藤惠重	〃	〃
〃	〃	竹野正春	〃	〃
〃	〃	山田辰三郎	〃	〃
〃	〃	中島勘吉	〃	〃
〃	〃	河野伴右衛門	〃	〃
〃	〃	切刀彦重郎	〃	〃
〃	〃	中島勘吉	〃	〃
〃	〃	河野富家	明治四四、三、三一	一〇、一
〃	〃	花輪惠十郎	大正三、六、二六	四、一一
〃	〃	齋藤清十郎	大正三、六、二六	四、一一
〃	〃	河野伴右衛門	大正二、一〇、三〇	一、七
〃	〃	保坂五三郎	大正三、六、二六	〃
〃	〃	山田辰三郎	大正三、四、一五	三、一一
〃	〃	鮎川豊三郎	大正三、三、三一	四、一一
〃	〃	中島勘吉	大正七、一〇、二八	四、一
〃	〃	河野豊佐	〃	〃
〃	〃	澤登直哉	〃	〃

〃	齋藤代藏	〃	大正	七、	一〇、二九
〃	石原茂作	〃	〃		
〃	中島勘吉	〃	〃		
〃	河野豊佐	〃	〃		
〃	齋藤午吉	〃	大正	八、	一二、七
〃	花輪政富	〃	大正	一〇、	一、三〇
〃	功刀相三郎	〃	大正	一一、	九、一六
〃	小笠原寛	〃	大正	一〇、	五、二
〃	秋山福三	〃	大正	一一、	一〇、二九
〃	小泉國光	〃			
〃	河野豊佐	〃			
〃	小笠原午吉	〃	大正	一三、	一、三一
〃	齋藤寛	〃	大正	一三、	四、一四
〃	花輪角太郎	〃	大正	一四、	一、
〃	高瀨信	〃	大正	一〇、	四、
〃	花輪幸一	〃	大正	一五、	一〇、二九
〃	名取太三郎	〃			
〃	山本善四郎	〃			
〃	花輪奥太郎	〃	昭和	三、	四、四
〃	名取市太郎	〃	昭和	五、	五、九
〃	有泉二朔	〃	昭和	三、	一〇、二九
〃	澤登敬重	〃	昭和	五、	
〃	中島泰一	〃	昭和	五、	一〇、二九

〃	齋藤代藏	〃	大正	一〇、	四、一七
〃	石原茂作	〃	大正	一〇、	一、二五
〃	中島勘吉	〃	大正	一一、	一〇、二八
〃	河野豊佐	〃	〃		
〃	齋藤午吉	〃	〃		
〃	花輪政富	〃	大正	一一、	三、一五
〃	功刀相三郎	〃	大正	一一、	一〇、二八
〃	小笠原寛	〃	〃		
〃	秋山福三	〃	大正	一三、	四、七
〃	小泉國光	〃	大正	一五、	一〇、二八
〃	河野豊佐	〃	大正	一五、	一〇、二八
〃	小笠原午吉	〃	大正	一五、	一〇、二八
〃	齋藤寛	〃	大正	一二、	二
〃	花輪角太郎	〃	大正	一五、	一〇、二八
〃	高瀨信	〃	昭和	三、	三、三一
〃	花輪幸一	〃	大正	一五、	六、七
〃	名取太三郎	〃	昭和	五、	一〇、二八
〃	山本善四郎	〃			
〃	花輪奥太郎	〃	昭和	三、	一、一九
〃	名取市太郎	〃	昭和	五、	一〇、二八
〃	有泉二朔	〃	昭和	一一、	三、三一
〃	澤登敬重	〃	昭和	五、	一〇、二八
〃	中島泰一	〃	昭和	九、	一〇、二八

〃	齋藤代藏	〃	大正	一〇、	四、一七
〃	石原茂作	〃	大正	一〇、	一、二五
〃	中島勘吉	〃	大正	一一、	一〇、二八
〃	河野豊佐	〃	〃		
〃	齋藤午吉	〃	〃		
〃	花輪政富	〃	大正	一一、	三、一五
〃	功刀相三郎	〃	大正	一一、	一〇、二八
〃	小笠原寛	〃	〃		
〃	秋山福三	〃	大正	一三、	四、七
〃	小泉國光	〃	大正	一五、	一〇、二八
〃	河野豊佐	〃	大正	一五、	一〇、二八
〃	小笠原午吉	〃	大正	一五、	一〇、二八
〃	齋藤寛	〃	大正	一二、	二
〃	花輪角太郎	〃	大正	一五、	一〇、二八
〃	高瀨信	〃	昭和	三、	三、三一
〃	花輪幸一	〃	大正	一五、	六、七
〃	名取太三郎	〃	昭和	五、	一〇、二八
〃	山本善四郎	〃			
〃	花輪奥太郎	〃	昭和	三、	一、一九
〃	名取市太郎	〃	昭和	五、	一〇、二八
〃	有泉二朔	〃	昭和	一一、	三、三一
〃	澤登敬重	〃	昭和	五、	一〇、二八
〃	中島泰一	〃	昭和	九、	一〇、二八

〃	保坂清治郎	〃	昭和	六、	四、八
〃	花輪泰朗	〃	昭和	九、	一〇、二八
〃	齋藤勇造	〃	〃		
〃	保坂五三郎	〃	〃		
〃	名取豊七	〃			
〃	山本善四郎	〃			
〃	花輪賢孝	〃	〃		一一、三、一四
〃	齋藤精次	〃			
〃	澤登敬重	〃			
〃	清原	〃	一一、	三、三一	

〃	保坂清治郎	〃	昭和	六、	四、八
〃	花輪泰朗	〃	昭和	九、	一〇、二八
〃	齋藤勇造	〃	〃		
〃	保坂五三郎	〃	〃		
〃	名取豊七	〃			
〃	山本善四郎	〃			
〃	花輪賢孝	〃	〃		一一、三、一四
〃	齋藤精次	〃			
〃	澤登敬重	〃			
〃	清原	〃	一一、	五、八	

歷代校長

職名	氏名	就職年月日	在職年月
訓導試補	村上正義	明治 六、一〇、二五	四、三
教頭心得	安藤藤吉	明治一一、一、一九	一、一一
教頭	金丸惠梁	明治一二、一二	九、
教頭	淺川善吾	明治一三、一一、二〇	二、九
校長心得	小笠原同候	明治一五、一、一二	七、
校長心得	池田毅(舊安藤藤吉)	明治一八、二、二二	
訓導	澤權六郎	明治二〇、四、二	二、三
兼任校長	飯野仁三郎	明治二一、九、二一	一、一
訓導	赤松定鄕	明治二二、七、一二	一、一〇
兼任校長	太田勉	明治二四、五、二九	五、五

明治三一、	八、一〇	訓導兼校長	青柳與六	
明治三二、	七、二九	訓導	竹野正春	
明治三三、	六、一九	訓導兼校長	伊藤正哉	
明治三六、	一〇、一五	訓導兼校長	山田辰三郎	
大正 二、	四、一四	訓導兼校長	鮎川豊三郎	
大正 七、	三、二八	訓導兼校長	石原茂作	
大正一〇、	四、二五	訓導兼校長	秋山福三	
大正一三、	四、 七	訓導兼校長	高瀬 信	
昭和 三、	三、三一	訓導兼校長	有泉二朔	
昭和一一、	三、三一	訓導兼校長	原 清	

本校在職教員

就職年月日	職名	氏名	退職年月日	在職年月
明治 六、一〇、二五	教頭心得	村上正義	明治一〇、一二、	四、二
明治 七、三、一九	訓導	竹野正春	大正 三、三一	四〇、一
明治一一、一、一九	教頭心得	安藤藤吉	明治一二、一一、	一、一二
明治一二、一二、	教頭	金丸惠梁	明治一三、八、	九、
明治一三、一一、二〇	教頭	淺川善吾	明治一四、五、五	七、
明治一四、五、五	雇教員	功刀素明		
	授業生	竹野八十之甫	明治一六、九、八	
明治一五、一、一二	校長心得	小笠原同候	明治一七、九、	二、九
	授業生	霜田充天	明治一八、八、三一	
明治一五、七、一二	授業生	秋山四ノ一		

明治一五、	九、二五	雇授業生	大原慈圓	
明治一六、	一〇、 一	授業生	小笠原角次郎	
明治一七、	六、 五	授業生	花輪貞重郎	
明治一七、	七、 一	雇授業生	塚原義辨	
明治一七、	七、 一	雇授業生	村松高志	
明治一七、	八、 九	雇授業生	藤井辨壽	
明治一七、	九、一九	雇授業生	足達彦作	
明治一八、	二、二一	校長心得	安藤々吉	
明治一八、	三、二九	授業生	花輪用二郎	
明治一八、	四、 三	雇授業生	中込健一郎	
明治一八、	八、三一	雇授業生	齋藤米治郎	
		雇授業生	新津林次郎	
		雇授業生	手塚陸司朗	
明治二〇、	一、 六	雇授業生	澤權太郎	
明治二〇、	四、 二	訓導校長	中込唯藏	
明治二〇、	四、 五	訓導	青柳與六	
明治二一、	三、 一	授業生	澤登照吉	
明治二一、	四、 九	授業生	飯野仁三郎	
明治二一、	九、二一	兼任校長	塚原龜作	
明治二二、	四、二〇	雇教員	松定鄕	
明治二二、	七、一二	訓導(校長)	赤松章	
明治二二、	八、三一	雇教員	三科新次	
明治二三、	二、 七	雇教員	渡邊昇	
明治二三、	六、 六	授業生	小島雄	

明治一九、	三、一五	二、 六		
明治二三、	四、 四	五、一一		
明治一七、	七、三一	一		
明治一八、	四、 三	一〇		
明治一八、	二、 五	六		
明治二〇、	四、 二	三		
明治二一、	三、 一	一		
明治一九、	一一、二八	一、		
明治一八、	九、 七	二		
明治二〇、	三、一六			
明治二一、	四、 九	一、 一		
明治二三、	五、 九	三、 二		
明治二一、	三、三一	一		
明治二二、	四、 四	一		
明治二二、	七、一二	一一		
明治二二、	八、三一	五		
明治二四、	四、一七	一、一〇		
明治二三、	二、 七	七		
明治二四、	六、二七	一、 五		
明治二三、	一〇、 七			

明治二三、	一〇、二七	訓導	功刀雄一郎	明治二八、	九、三〇
明治二四、	五、二九	兼任校長	太田勉	明治二九、	九、一八
明治二四、	七、一	雇授業生	石原素太郎	明治二五、	五、一六
明治二四、	七、一一	訓導	岸本保次	明治三一、	一一、五
明治二五、	五、一六	雇教員	澤登敬重	明治二六、	四、
明治二六、	四、二五	雇教員	三澤久雄		
明治二七、	六、	雇教員	竹川市太郎	明治二八、	八、
明治二八、	九、七	雇教員	山口儀太郎	明治二九、	四、
明治二八、	九、二五	雇教員	長谷部敷一	明治三〇、	四、三〇
明治二九、	五、一	雇教員	澤登嘉幸	明治三〇、	二、二五
明治二九、	五、四	雇教員	芦澤利次	明治三〇、	九、一
明治三〇、	二、二五	雇教員	清水泰作	明治二九、	六、一四
明治三〇、	九、三	雇教員	小泉福次郎	明治三一、	四、九
明治三〇、	九、六	雇教員	北村宇七郎	明治三一、	九、三
		雇教員	霜田一敞	明治三一、	四、九
明治三一、	四、七	准訓導	飯野清雪	明治三一、	三、九
明治三一、	八、一〇	訓導兼校長	川手新太郎	明治三二、	四、
明治三二、	二、二五	訓導	青柳與六	明治三二、	八、三一
明治三二、	四、一	准訓導	篠原猪熊	明治三二、	一一、一三
明治三二、	七、二九	訓導	小泉福次郎	明治三三、	四、二〇
明治三三、	四、一八	雇教員	北村朗	明治三九、	四、一一
		訓導	竹内新次	明治三三、	五、二七
明治三三、	七、三	校長	三枝正哉(伊藤)	明治三六、	一〇、一九

明治三五、	四、	雇教員	津久井みさほ	明治三六、	一二、三
明治三六、	五、一	訓導	山本甚作	明治三七、	四、二七
明治三六、	一〇、五	代用教員	河西市九郎	明治三七、	三、一三
明治三三、	五、	雇教員	名取晴信	明治三六、	五、二
明治三六、	一〇、一五	訓導兼校長	山田辰三郎	大正 二、	四、一四
明治三七、	三、三一	訓導	佐野あき	明治三九、	四、五
明治三七、	四、七	代用教員	名取晴信	明治三七、	五、三一
明治三七、	四、二五	訓導	竹丘彌甫	明治四四、	四、六
明治三八、	三、一六	代用教員	河西善二郎	明治三九、	四、七
明治三八、	四、二九	准訓導	小池宣和	明治三九、	四、一一
明治三九、	三、三一	訓導	花輪みすぢ	明治四五、	八、三一
明治三九、	四、七	訓導	野呂瀬退作	明治四二、	三、三一
明治三九、	四、二五	准訓導	中澤啓造	明治四〇、	七、二九
明治三九、	四、二五	訓導	芦澤ひろの	明治四〇、	一一、一八
明治四〇、	一一、二〇	准訓導	井富もりへ	明治四一、	五、三一
明治四一、	二、二九	代用教員	中込正之	明治四二、	九、四
明治四一、	三、三一	訓導	津久井みさほ	大正一一、	二、一六
明治四一、	四、二三	訓導	小林三男	明治四二、	四、一二
明治四一、	五、一五	代用教員	宮崎忠	明治四一、	一〇、
明治四一、	六、一五	代用教員	尾崎忠晃	明治四三、	三、
明治四一、	六、二九	代用教員	中山ゐをの	明治四二、	一、一五
明治四一、	九、	訓導	川手敬郷	大正 二、	三、三一
明治四二、	二、	訓導	西千穂	明治四三、	三、三一

明治四二、二、二五	代用教員	花輪徳重	大正二、八、二三	五、七
明治四二、三、三一	訓導	米山富造	明治四三、三、三一	一、一
明治四二、三、三一	訓導	清水榮七	明治四五、四、一六	三、二
明治四二、九、四	准訓導	窪田長治	明治四二、一〇、五	二
明治四二、一一、二一	訓導	中込精藏	明治四四、六、九	一、八
明治四三、三、三一	訓導	三井源治	大正六、三、二七	七、一
明治四三、三、三一	訓導	北村琴次	明治四五、四、一六	二、二
明治四三、三、三一	代用教員	齋藤靖一	大正元、一〇、四	二、八
明治四三、五、一六	代用教員	武川平八	明治四三、六、一八	二
明治四三、六、二〇	准訓導	小宮山照介	明治四三、一二、二四	七
明治四四、一、九	代用教員	霜田一山	明治四四、一一、二五	一一
明治四四、三、三一	訓導	小笠原孟	大正一二、三、三一	一二、一
明治四四、一〇、一八	訓導	篠原高吉	明治四四、一一、一七	二
明治四四、一一、二七	代用教員	飯野敏	明治四五、二、	四
明治四五、一、一〇	代用教員	小林善廣	大正三、二、一七	三、二
明治四五、一、一二	准訓導	齋藤靖一	大正元、一〇、四	一〇
明治四五、三、一九	訓導	小坂芳雄	大正四、一〇、一二	三、八
明治四五、四、四	訓導	金山繁直	大正三、三、三一	二、
明治四五、四、四	訓導	長坂つね	大正三、三、三一	二、
明治四五、七、九	訓導	小林とよ	大正一三、九、九	一二、三
大正元、一〇、八	准訓導	花輪靜惠	大正八、一、二九	六、四
大正二、三、三一	訓導	岩下千尋	大正三、三、三一	一、一
大正二、四、一四	訓導兼校長	鮎川豊三郎	大正七、三、二八	五、

大正二、八、三一	准訓導	中込競	大正四、三、三一	一、八
大正三、二、二八	代用教員	小野幸男	大正三、三、三一	二
大正三、三、三一	訓導	手塚義一	大正一〇、三、三一	七、一
大正三、三、三一	訓導	櫻井美景	大正五、三、三一	二、一
大正三、三、三一	准訓導	笹本吉久	大正三、五、二七	三
大正三、三、三一	代用教員	深澤正親	大正三、六、三〇	四
大正三、三、三一	准訓導	風間玄量	大正一三、三、三一	一〇、一
大正三、六、一六	代用教員	今村和光	大正三、九、二二	四
大正三、九、三	代用教員	小野彌太郎	大正三、九、二二	一
大正三、九、二三	代用教員	五味二一	大正四、三、三一	七
大正三、一〇、七	訓導	中山みよじ	大正五、三、三一	一、六
大正四、三、三一	訓導	齋藤積也	大正八、一〇、一一	三、一〇
大正四、三、三一	准訓導	志村義治	大正五、一一、二八	一、九
大正四、四、五	代用教員	近藤由藏	大正四、一一、三〇	八
大正四、一〇、一二	訓導	田中宗吉	大正五、三、三一	六
大正四、一二、七	代用教員	中込呉郎	大正六、三、二八	一、四
大正五、三、三一	訓導	澤登豊太郎	大正七、三、二八	二、一
大正五、三、三一	訓導	花輪孝	大正一三、三、三一	八、
大正五、四、一〇	代用教員	土橋もゝよ	大正六、一二、二七	一、九
大正六、三、三一	訓導	淺利背一	大正一一、五、三一	五、三
大正六、三、三一	訓導	清水元鎭	大正七、八、二八	一、六
大正六、三、三一	訓導	望月弘歡	大正六、一〇、四	八
大正六、五、七	代用教員	河野茂三郎	大正七、一一、二二	一、七

准訓導	加藤敬一	大正六、一一、五	大正七、一〇、二九
代用教員	樋泉政晴	大正六、一一、一五	大正七、一一、二八
代用教員	淺川與三郎	大正七、一一、一五	大正一五、三、三一
訓導兼校長	石原茂作	大正七、三、二八	大正一〇、四、一七
代用教員	岩波晉之助	大正七、三、三一	大正九、一〇、二一
代用教員	石島一枝	大正七、七、八	大正八、一〇、三〇
訓導	竹丘彌市	大正七、八、二八	大正十五、三、三一
代用教員	功刀傳三郎	大正七、一二、四	大正八、三、三一
代用教員	深澤角造	大正七、一二、二二	大正九、四、一六
代用教員	功刀茂雄	大正八、一、一五	大正一三、四、一二
訓導	中島義正	大正八、三、三一	大正一〇、六、二七
訓導	小宮山松江	大正八、三、三一	大正九、三、二四
代用教員	武川あや	大正八、六、六	大正一一、一、一八
訓導	津久井みさほ	大正九、三、三一	大正一一、二、一八
代用教員	村松重雄	大正九、四、二〇	大正九、一二、二五
代用教員	藤巻達龍	大正九、一〇、二三	大正一三、五、三一
代用教員	功刀傳三郎	大正一〇、一、八	大正一〇、三、三一
代用教員	澤登豊方	大正一〇、一、一〇	大正一〇、三、三一
代用教員	三井金次	大正一〇、四、一	大正一〇、一〇、二二
准訓導	齋藤健吉	大正一〇、四、八	大正一一、四、二二
訓導兼校長	村松とら子	大正一〇、四、一二	大正一三、四、七
代用教員	秋山福三	大正一〇、四、二五	大正一一、三、一
代用教員	藤田八重	大正一〇、七、八	大正一一、三、二八

代用教員	川手春應	大正一〇、一二四	大正一二、一〇、三〇
訓導	中村義宣	大正一一、三、三一	大正一二、三、三一
訓導	丸茂きくじ	大正一一、三、三一	大正一二、三、三一
代用教員	保坂みやこ	大正一一、五、二一	大正一二、三、三一
訓導	三井英夫	大正一一、五、三一	大正一二、三、三一
訓導	中込競	大正一二、三、三一	大正一三、四、三〇
訓導	鮎川房子	大正一二、三、三一	大正一四、三、三一
訓導	石川貞子	大正一二、三、三一	昭和三、三、三一
代用教員	深澤恒子	大正一二、三、三一	大正一三、三、二五
代用教員	石川苗哉	大正一二、四、一〇	大正一二、一〇、一〇
訓導	中村光	大正一二、一〇、二四	大正一五、一、一四
代用教員	功刀七内	大正一二、一一、九	大正一三、三、二五
訓導	渡邊正造	大正一二、三、三一	大正一三、八、一五
訓導	澤登繁也	大正一二、三、三一	大正一三、四、二八
訓導	橘正薫	大正一二、三、三一	大正一四、三、三一
訓導	須田眞	大正一二、三、三一	昭和五、三、三一
代用教員	飯島靜江	大正一二、三、三一	大正一四、三、三一
代用教員	内田安平	大正一二、四、四	大正一四、二、二八
代用教員	高瀬信	大正一二、四、七	昭和三、三、三一
訓導兼校長	藤波英吉	大正一二、五、八	大正一三、九、三〇
代用教員	大芝邦雄	大正一三、四、三〇	大正一三、八、六
准訓導	白倉權一	大正一三、六、二四	昭和二、三、三一
代用教員	河野祐豊	大正一三、八、三一	大正一四、三、三一

長田博輝	訓導	大正一三、九、七	大正一四、三、三一	小澤すず	訓導	昭和四、四、一	昭和五、三、三一
雨宮をとも	訓導	大正一三、九、一〇	大正一五、三、三一	小澤文子	訓導	昭和五、四、一	昭和七、三、三一
飯島義典	訓導	大正一三、九、三〇	昭和二、九、三一	山本利光	准訓導	大正一五、三、三一	昭和六、三、三一
花輪紀	代用教員	大正一四、二、二八	昭和二、四、一二	江上佳丘	訓導	昭和六、三、三一	昭和七、三、三一
淺利菅一	訓導	大正一四、三、三一	昭和三、五、一	上智惠子	訓導	昭和三、六、一五	昭和五、三、三一
星野祐作	訓導	大正一四、三、三一	大正一四、八、三一	山本文子	訓導	昭和五、三、三一	昭和七、三、三一
橘正之	訓導	大正一四、三、三一	昭和二、三、三一	小澤すず	訓導	昭和四、四、一	昭和五、三、三一
小澤すず	訓導	大正一四、三、三一	昭和五、三、三一	星野祐作	訓導	大正一四、八、三一	昭和二、三、三一
山本文子	代用教員	大正一四、四、四	昭和五、三、三一	橘正之	訓導	昭和二、三、三一	昭和四、三、三一
江上智惠子	准訓導	大正一五、一、一四	昭和三、六、一五	飯島義典	訓導	昭和二、九、三〇	昭和三、四、一二
前本佳丘	訓導	大正一五、三、三一	昭和六、三、三一	花輪紀	代用教員	昭和二、四、一二	昭和三、五、一
前本利光	准訓導	大正一五、三、三一	大正一五、五、三	雨宮をとも	訓導	大正一五、三、三一	昭和二、一〇、一五
瀧田ひさ	訓導	大正一五、三、三一	大正一五、九、三〇	中島民造	代用教員	昭和二、六、一〇	昭和三、一〇、三一
雨宮侑一	代用教員	大正一五、五、一〇	大正一五、八、三一	花輪君子	代用教員	昭和二、四、一二	昭和三、五、三一
清水しづる	代用教員	大正一五、一〇、五	昭和四、八、三一	中込秀雄	代用教員	昭和二、四、二	昭和三、五、三一
川口昇	訓導	昭和二、三、三一	昭和四、三、三一	鈴木楸	訓導	昭和二、三、三一	昭和五、八、三一
深澤武	訓導	昭和二、三、三一	昭和七、三、三一	深澤武	訓導	昭和二、三、三一	昭和五、三、三一
鈴木楸	訓導	昭和二、三、三一	昭和五、八、三一	川口昇	訓導	昭和二、三、三一	昭和四、三、三一
中込秀雄	代用教員	昭和二、六、一五	昭和三、一〇、三一	清水しづる	代用教員	大正一五、八、三一	昭和四、八、三一
中島民造	代用教員	昭和二、一〇、三一	昭和五、三、三一	雨宮侑一	代用教員	大正一五、八、三一	昭和二、一一、三一
花輪君子	代用教員	昭和三、一、三一	昭和五、三、三一	瀧田ひさ	訓導	大正一五、九、三〇	昭和三、一二、三一
日向徳一	訓導	昭和二、八、三一	昭和三、一二、三一	前本利光	准訓導	大正一五、五、三	昭和六、三、三一
岩間幸男	代用教員	昭和二、一一、四	昭和三、三、三一	前本佳丘	訓導	昭和六、三、三一	昭和七、三、三一

有泉二朔	訓導兼校長	昭和三、三、三一	昭和一一、三、三一	麻生一夫	訓導	昭和三、三、三一	昭和五、三、三一
保坂すみえ	訓導	昭和三、三、三一	昭和一〇、三、三一	笹本武夫	准訓導	昭和三、四、二五	昭和四、三、三一
築野としる	准訓導	昭和三、四、三〇	昭和四、三、三一	荻野利一	訓導	昭和三、五、一	昭和四、三、三一
荻野利一	訓導	昭和三、五、一	昭和四、三、三一	中澤濟	代用教員	昭和三、六、二四	昭和四、三、三一
中澤濟	代用教員	昭和三、六、二四	昭和四、三、三一	齋藤金藏	代用教員	昭和三、六、二四	昭和四、三、三一
齋藤金藏	代用教員	昭和三、六、二四	昭和四、三、三一	澤登松江	代用教員	昭和三、六、二四	昭和四、三、三一
澤登松江	代用教員	昭和三、六、二四	昭和四、三、三一	池谷利長	代用教員	昭和三、六、二四	昭和四、三、三一
池谷利長	代用教員	昭和三、六、二四	昭和四、三、三一	渡邊武子	代用教員	昭和三、六、二四	昭和四、三、三一
渡邊武子	代用教員	昭和三、六、二四	昭和四、三、三一	一瀬喜重	代用教員	昭和三、六、二四	昭和四、三、三一
一瀬喜重	代用教員	昭和三、六、二四	昭和四、三、三一	齋藤正直	代用教員	昭和三、六、二四	昭和四、三、三一
齋藤正直	代用教員	昭和三、六、二四	昭和四、三、三一	名取久良	代用教員	昭和三、六、二四	昭和四、三、三一
名取久良	代用教員	昭和三、六、二四	昭和四、三、三一	齋藤亘	代用教員	昭和三、六、二四	昭和四、三、三一
齋藤亘	代用教員	昭和三、六、二四	昭和四、三、三一	矢田巖	代用教員	昭和三、六、二四	昭和四、三、三一
矢田巖	代用教員	昭和三、六、二四	昭和四、三、三一	分部正美	訓導	昭和三、六、二〇	昭和六、三、三一
分部正美	訓導	昭和三、六、二〇	昭和六、三、三一	沼田賢一	訓導	昭和五、八、三一	昭和六、三、三一
沼田賢一	訓導	昭和五、八、三一	昭和六、三、三一	内田健之助	訓導	昭和五、四、二〇	昭和六、三、三一
内田健之助	訓導	昭和五、四、二〇	昭和六、三、三一	中込夏江	訓導	昭和五、三、三一	昭和六、三、三一
中込夏江	訓導	昭和五、三、三一	昭和六、三、三一	花輪紀	訓導	昭和五、三、三一	昭和六、三、三一
花輪紀	訓導	昭和五、三、三一	昭和六、三、三一	溝江徳明	訓導	昭和五、三、三一	昭和六、三、三一
溝江徳明	訓導	昭和五、三、三一	昭和六、三、三一	齋藤正直	訓導	昭和五、三、三一	昭和六、三、三一
齋藤正直	訓導	昭和五、三、三一	昭和六、三、三一	名取久良	訓導	昭和五、三、三一	昭和六、三、三一
名取久良	代用教員	昭和四、三、三一	昭和六、三、三一	渡邊武子	訓導	昭和四、三、三一	昭和六、三、三一
渡邊武子	訓導	昭和四、三、三一	昭和六、三、三一	一瀬喜重	訓導	昭和四、三、三一	昭和六、三、三一
一瀬喜重	訓導	昭和四、三、三一	昭和六、三、三一	池谷利長	訓導	昭和四、三、三一	昭和六、三、三一
池谷利長	訓導	昭和四、三、三一	昭和六、三、三一	澤登松江	訓導	昭和四、三、三一	昭和六、三、三一
澤登松江	訓導	昭和四、三、三一	昭和六、三、三一	齋藤金藏	訓導	昭和四、三、三一	昭和六、三、三一
齋藤金藏	訓導	昭和四、三、三一	昭和六、三、三一	中澤濟	訓導	昭和四、三、三一	昭和六、三、三一
中澤濟	訓導	昭和四、三、三一	昭和六、三、三一	荻野利一	訓導	昭和四、三、三一	昭和六、三、三一
築野としる	訓導	昭和四、三、三一	昭和六、三、三一	笹本武夫	訓導	昭和四、三、三一	昭和六、三、三一
保坂すみえ	訓導	昭和一〇、三、三一	昭和一一、三、三一	麻生一夫	訓導	昭和五、三、三一	昭和六、三、三一
有泉二朔	訓導兼校長	昭和一一、三、三一	昭和一二、三、三一				

○昭和 六、八、三一	訓導	小田切	丑
○昭和 七、三、三一	訓導	下條 長壽	
昭和 八、三、三一	訓導	北村 明	昭和 九、三、三一 一、一
○昭和 八、一〇、四	代用教員	堀内 猪子世	一、一
昭和 九、三、三一	訓導	木村 一雄	昭和一一、三、三一 二、一
昭和 九、三、三一	訓導	前島 米子	昭和一一、三、三一 二、一
○昭和 九、三、三一	訓導	奈良 千枝子	
○昭和一〇、三、三一	訓導	伊藤 眞	
昭和一〇、四、八	代用教員	海野 梅乃	昭和一〇、八、三一 五
昭和一〇、八、三一	代用教員	宮坂 みえ	昭和一一、三、三一 八
○昭和一一、三、三一	訓導兼校長	原 清	
○昭和一一、三、三一	訓導	櫻田 進	
○昭和一一、三、三一	訓導	細田 篤之	
○昭和一一、三、三一	訓導	清水 まさよ	
○昭和一一、三、三一	訓導	有野 松次	

○印ハ在職中

校醫

就職年月日	職名	氏名	退職年月日	在職年月
明治三五、二、	校醫	奥田藤治郎(青木)	明治三四、一二、	
明治三七、四、二	校醫	平岩 永治	明治三五、一〇、	九
大正 三、四、一	校醫	桑島 貫一	大正 三、三、二七	一〇、一
	校醫	小泉 福次郎	大正一〇、三、三一	七、

大正一〇、三、三一	校醫	花輪 正	大正一五、一〇、一五 四、八
○大正一五、一〇、一五	校醫	小泉 福次郎	
○昭和 三、四、二五	校醫(齒科)	齋藤 源彦	

○印ハ在職中

沿革の大要

創立前

學校創立前は各部落に手習所を開き子弟の教育をなしたり。教ふる者を師匠と稱し、手習所は教師、師匠の住家或は長屋を用ひ教匠の僧呂なるときは其寺院を手習所に充てたり。手習所を開きたるは文化、文政の頃なり、其以前は寺院に於て四、五の子弟に習字を授く、これを寺子屋と云ひしなり。手習所に於ける教授の方法は先づ習字を授け次に低度の讀書和解を授け、作法を教へたり。常に身を以つて模範を示したれば子弟の師匠を尊敬すること誠に深く、死後碑を建てゝ永く其の恩顧に報ゆるものありたり。

上今井村に於ては津久井七右衛門と云ふ長百姓を師匠として初めしものあり。七右衛門は性朴實にし

て、學問を好む文化、文政の頃手習所を設け敎へて怠らざりければ入門の子弟甚多く風儀大いに改まる嘉永年間仝人死するや、子弟擧つて資金を出し、石に刻して筆塚を建て永く其の恩に報ゆと云ふ。

其後醫師本多保精手習所を設け子弟に敎へ明治初年の學校創立の時に及ぶ。

吉田村は百姓代より長百姓となれる保坂與一左衛門寛政年間より手習所を創め子弟の敎育に從事して文政年間に至りて止む。

次に仝村長百姓なる佐助其子の佐太郎共に手習敎匠をなし明治初年に至る。

十五所は諏訪神社(諏訪明神)神主竹野若狹文化初年迄師匠をなし、其後長百姓兵衞門(後爲一と改む)天保年間より手習所を開く爲一は本郡飯野村の人龜三郎の四男なり、文政十一年二月七日先代兵右衞門の婿養子となり家を繼ぐ人となり、溫厚篤實にして文學に長じ、俳諧を好み書道に巧なり、多年子弟の啓發に努めたるを以て敎化大いに行はれ、村民の渴仰するところ大なり、明治十三年七月四日病を以て沒す、享年七十三村人盛儀を以て是を葬る、後子弟等相謀りて其の功績を不朽に傳へんと欲し鄕社諏訪神社の鳥居の傍に石碑を建て勒して綿蠻亭爲一翁筆塚とす。今に至りて其の德を慕ひ村人碑前を通行するもの必ず禮をなす。

澤登は寬政年間隆澤寺の住持俊光寺子屋を開き子弟に敎ふ、文化、文政の頃は長白姓一兵衞手習所を設けて子弟に敎へ仝人の老ゆるや忠右衞門これに代りて敎へ、後一兵衞の倅源右衞門及梅右衞門又これに代りて敎ふ、梅右衞門死するや子弟計りて筆塚を其の屋敷に建てゝ其の功績を傳ふ。

創立當時

明治五年八月第二一四號を以つて政府始めて學校設置の布告をなしたれば習六年二月各部落は學校を設け子弟の敎育をなす、十五所部落の學校設立願書及其の指令を左に擧げて其の一例とす。

以書付奉願上候

巨摩郡第廿六區

十五所村役

右村內一同奉申上候今般御敎育の儀に付厚き御手入を以區々學校設立上命有難奉存候處私共村方の儀は隣村隔り幼少の者通學遠方にては難澁仕候に付一村限り申合せ九十番地に於て一校取設度奉存候間此段御許被成度奉願上候　追而訓導の儀は仝村副戶長澤登兵右衞門父爲一相願度依之三谷恒方の於御巡廻先御試驗相濟候間是亦願通御許被成下度奉願上候也

明治六年二月

右村戶長　小笠原作右衞門㊞

副戶長　澤登兵右衞門㊞

百姓代　澤登惣吉㊞

學區取締　有泉復左衞門㊞

山梨縣權參事　富岡敬明殿

願之趣聞屆候事

山梨縣印

本村各村落は右の如く學校を設立したるに生徒日々に増加し幾多の學級を生じ適良の敎師を得るに難く又經費の支出に困難し、これを一ヶ所に合併して經濟を計らんと各村落協議決定し仝年六月三日附を以つて小學校設定額書を出し仝月十八日付を以つて小學校敷地願書を出したり、其兩願書左の如し

小學校設立願書

巨摩郡第廿六區

吉田村　上今井村

澤登　十五所

右村々正副戸長並伍長一同奉申上候學制之義御布達者勿論追々懇に御說諭御座候處當區内之儀者皆畠僻土故是迄設立の御所決定不致困脩罷在り候得共今般四ヶ村一同篤と熟議の上區内中央鄕社於社中新に一校設立致度相談行屆就ては右係等別紙の通り毎村員數取定致候間前書之場所へ設置被仰付度連印を以つて奉願候

明治六年十月三日

吉田村戸長　河野佐太郎㊞　上今井村戸長　津久井庄左衛門㊞

副戸長　秋山重之丈㊞　副戸長　津久井元左衛門㊞

以上

伍長　河野清右衛門㊞　伍長　功刀伴左衛門㊞

澤登戸長　齋藤長之藏㊞　十五所戸長　小笠原代右衛門㊞

副戸長　名取吉左衛門㊞　副戸長　小笠原安八㊞

伍長　齋藤喜太郎㊞

山梨縣權令　藤村紫朗殿

小學校敷地願書

巨摩郡第廿六區吉田外二ヶ村正副戸長奉申上候小學校設立に付敷地之儀便宜に付產土神諏訪大神社中に於て元神職私塾地の内拜借被仰付度相願候處右は本來上納の場所故御聞屆難相成度御指令の趣承知致候共右社中の内自分地租上納の地拜借被付又は社中續十五所作右衛門所持地小物成場へ設立被仰付候共適宜を以つて兩樣の内へ取計候間御許容被成下度尤普請中假學校の儀者先般御差圖の通り十五所法源寺へ早速被仰付度奉願上候

昭和六年十月十八日

吉田村

戸長　河野佐太郎㊞　副戸長　秩山重兵衛㊞

十五所村

戸長　小笠原作右衛門㊞　副戸長　小笠原安八㊞

澤　登

戸長　齋藤長兵衛㊞　副戸長　名取吉右衛門㊞

山梨縣權令　藤村紫朗殿

かくの如く學校設立等の願書を出し又一面には合同を斷行して、仝月二十五日を以つて各部落の學校を閉し十五所法源寺を假校舍となし、吉田學校と稱し敎師には澤登學校の訓導たりし村上正義訓導を招きたり、而るに年一年に生徒增加し學級又加はり假校舍狹隘なるも前の學校設立等の願聞屆なきより更に八年一月十三日付を以つて左の如く設立願を出したるに幸に許可を得たり。

學校設立願

巨摩郡第二十六區

豊村の內　吉田組

十五所組

澤　登　組

上今井組

右正副戸長奉申上候吉田假校舍の儀追々生徒入門手狹に相成其他入門致度者も數多有之候付鄕社諏訪大神社中私墾地へ迅速設立仕度候共第一大材等更に無之土地故建築差支當惑罷在候然る處仝郡鏡中條村無量寺廢寺御拂下の趣及傳承右堂宇讓請足合せ仕度候右村役人並に世話人一同へ談示仕候間代金拾貳圓にて何卒御拂下被仰付度此段願上候

明治八年第一月十三日

吉田組

戸長　河野佐太郎㊞　副戸長　秋山重兵衛㊞

十五所組

戸長　小笠原德廣㊞　副戸長　澤登兵右衛門㊞

澤登組

戸長　齋藤長兵衛㊞　副戸長　佐久間伴四郎㊞

上今井組

戸長　中込九右衛門㊞　副戸長　津久井新左衛門㊞

以上

前書奉願候に付奥印仕候

以上

明治八年一月十三日

副區長　齋藤守平

山梨縣權令　藤村紫朗殿

前の如く學校設立許可を得又材料の拂下を得たるも又敷地の許可なきを以つて仝年十一月五日を以つて其督促願を次の如く出したり。

以書付奉申上候

巨摩郡第廿六區

豊　村

正副戸長奉申上候昨年中學校敷地其他本年八月中築造に付竹木類相當代價を拂下願書奉差上置所今に何等の御沙汰も不仰聞當惑罷在候尚新築造取掛度奉存候間至急御指令御下法被成下度一應以書面奉願上候

明治八年十一月五日

以上

右

戸長　齋藤長兵衛㊞

戸長　澤登金右衛門㊞

山梨縣令　藤村紫朗殿

右の如く出願し許可ありたるより鄉社諏訪神社の南面に於て五百九十一坪河野佐太郎の寄附せるを敷地となし翌九年四月工事を起し仝年十月二十日落成し仝二十五日吉田學校を移して此處に豊學校と更め開校式を擧げたり。

其の構造の概要をあぐれば左の如し

一、本館敎室（西洋型平家造建坪六十坪）　一棟

一、附屬敎室（平家建）　一棟

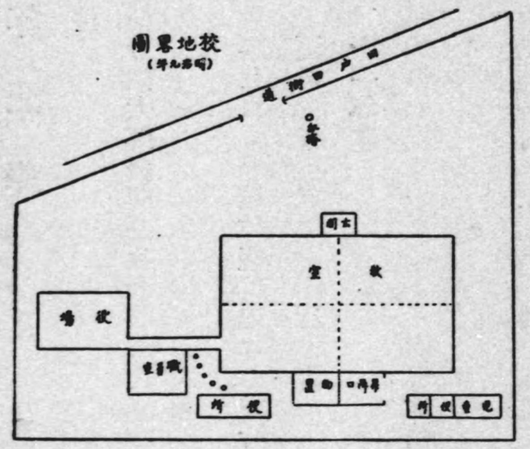
一、敎員室　一棟

一、小使控室　一棟

一、便所　二棟

此の建築工費壹千八百四拾五圓を要したり。

其校地略圖次の如し



逐年記錄

（重要事項のみ記述し每年擧行する事柄等は最初のみ誌す）

明治九年度

九年四月河野佐太郎齋藤長兵衛の兩氏學校新築擔當事務掛を拜命し學校建築に關し土木一切の事務を擔理す。

四月以降着手したる學校建築は恙なく進行し仝年十月二十日落成し仝二十五日法源寺假校舍より移轉し豐學校と更め開校の式典を擧行せり。

明治十年、十一年度

各校に敎頭幹事を置くの令により訓導試補村上正義敎頭心得に任せられ幹事には河野佐太郎其命を拜す。

仝十二月敎頭心得村上正義職を辭し玉幡校に轉任す。

明治十一年一月十九日八等訓導愛知縣平民藤藤吉本校敎頭心得を拜命し敎務を監理す。

明治十二年度

仝十二年十一月安藤々吉當校を辭し桃園校に轉任す。

仝年十二月七等訓導金丸惠梁本校敎頭の命を拜し敎育事務一切を處理す。

明治十三年度

明治十三年八月金丸惠梁職を辭す竹野正春雇敎員を以つて校務を理む。

仝十一月二十日訓導淺川善吾本校敎頭の命を拜し敎務一切を處理す。

明治十四年度

明治十四年五月淺川善吾職を辭す功刀素明雇敎員を以つて校務を監す。

明治十五年一月七日始業式生徒百二十七人仝年二月十七日陰曆除夜に屬し十八日元旦に當るを以つて昇校生なし。

一月十二日敎頭小笠原氏始めて臨校す。

二月六日學事表簿調方に付兩委員及訓導小笠原氏出頭

明治十五年三月十一日小笠原同候任五等訓導本校々長心得申付られ敎務一切を監理す。

三月一日小笠原德廣委員を命せらる。

明治十五年度

六月十四日學館鈴木殿臨監前期昇級試驗を行ふ、受驗生百四十六名にして落第生なし。

六月十六日より廿二日まで試驗休

七月十二日授業生秋山四ノ一本日より出勤せり。

七月十七日東西學區聯合敎育會及び懇親會を甲府市魚町松亭に開催す。

九月廿五日久圓寺住職大原慈圓を雇授業生とす。

十月廿一日學務官遠藤宗義殿及山梨學校幹事中川亨君巡回來校有り委員澤登氏へ對し諸調査あり且敎

授法に付説明ありたり。

十二月十五日後期大試驗に付縣官林君來監午前九時より午後六時まで試驗、受驗生百廿五人、優等三人、上賞七十六人、下賞三十三人、無賞及第十六人。

明治十六年一月四日授業始、生徒一八九人、職員校長小笠原、教員竹野、霜田、大原。

教務委員佐久間敬之、學務委員幹事石川光隆出席せり。

二月二日未明より雪降り積ること五寸、昇校生徒僅少なるを以つて學務委員と倶に終日表簿を調整す

明治十六年度

四月九日陰暦上己節に當るを以つて昨八日日曜と交換して本日を休業とす。

四月十九日初等第六級生增加し教場及授業時間の都合により各受持生徒を交換す。

六月三日前期大試驗受驗生百三十五人落第なく優等賞を得たるもの二名、上賞を得たる者七十五人、下賞を得たる者二十八人なり。

七月廿一日炎威嚴酷の候に到れるを以つて午前第六時より第十一時迄を授業時間とす。

八月廿日本日より授業時間午前八時より第十一時まで午後第一時より第三時迄とす。

九月八日竹野八十之甫氏教導團入營に付授業生を餞す。

十月一日本村小笠原善左衛門二男小笠原角次郎を雇授業生とす。

十一月廿日大試驗受驗生員百四十五人、昇級するもの百四十人、優等一人、上賞十六人、下賞を與ふ

るもの廿二人あり。

十二月六日中等科第三級及一級大試驗に付鏡中條學校に出頭受驗す。

十二月卅一日晴天北風大祓祭事に付休業。

明治十七年一月四日授業始め出席生徒百四十五人。

二月一日本日文部省より幼學綱要を賜はる。

三月卅一日校長小笠原氏御達之義有之御召喚に付本日徽典館へ出頭功績卒業証を賜はる。

明治十七年度

五月廿九日前期大試驗昇級生徒百四十四人、優等三人、上賞三十四人、下賞三十五人授與せらる。

六月五日（小笠原同候、仝角次郎、竹野正春、花輪貞重郎）本村花輪利右衛門の次男花輪貞重郎を雇授業生とす。

六月十日本日より十日間農業繁忙生徒出席するもの僅少なるを以て暑中休みに換えて休業とす。

七月一日三惠村寺部組塚原義辨なる者を雇授業生とす、同時に南巨摩郡鰍澤村松高志なるものを雇授業生とす。

七月卅一日塚原義辨本月限りにて退職す。

八月九日仝郡鮎澤村藤井辨壽を本日より雇授業生とす。

八月廿五日本日より教授術再傳習に付教員三人出頭九月十日第一期分を了る。

九月五日紋三日間土地一般舊慣を脫せず盂蘭盆會と稱し戶毎に數箇の燈火を点し賑はしく、歌舞するの例あるを以つて生徒等一人の昇校するなし因つて休校す。

九月十九日本日より仝郡大井村足達彦作を雇授業生とす。

十七年九月三月十五日校長小笠原同候桃園校に轉す。

明治十八年二月五日足達彦作退職す。

公私立學校生徒暴行危險の行爲を爲す可からず又運動等の爲め衆生群集するときは敎員必ず注意して危激の行ひ非ざるを要することの上司より布達あり。

二月六日明治十六年山梨縣學事年報到る。

二月七日敎員一ヶ年勉勵者に賞を酬いんため行跡を取調べたり。

二月十一日學區内の父兄舊習を脫せず陰曆舊臘に迫るを以て學徒の兒輩迄應分の事を執せんが爲めか昇校する者甚で僅少なるを以つて不得止十二日より十九日迄休業を致度旨申出たるところ承認の報上司より到る。

二月廿一日四等訓導安藤藤吉校長心得に任せられ、本校に到る生徒をして之を途に迎へしむ。訓導生徒を校内に聚め赴任の旨を告げ且將來に就て懇諭する所あり、而歸散を命ず。

學務委員澤登助重郎訓導と共に村會議員及諸敎員を饗す、委員將來施行せんとする所のものを議員に告げ大いに賛成を得たり夜に入りて退散。

二月廿六日委員昇校此日取締心得を定め十三人を擧げて之に任じ各手帳鉛筆を下附す其心得並に生徒取締の人名左の如し。

生徒取締心得

一、生徒取締は衆生徒の標準となるべきものなれば品行方正言語温和にして親切を旨とし、愛憎の偏心ある可からず。

一、昇降の路次衆生徒の行列を正し、靜肅除行せしむべし。

一、起業の擊柝を聞く毎に各級生徒を整列せしむべし。

一、退校の後或は休業の日と雖も生徒中暴行又は危險若くは不敬の擧動をなす者を認るときは之を制諭し、用ひざるものあらば其姓名行爲を手帳に詳記し敎師に申告すべし。

一、生徒取締にして能く其職務を盡す者には褒賞を與ふべし。

一、生徒取締にして粗暴不敬の擧動をなすものあるときは其取締を取上ぐべし。

取締人名

河野方二郎　保坂伊三郎　名取太三郎　青柳與六　津久井清五郎
中込太造　鹽澤吉五郎　中島庄太郎　齋藤藤作　名取榮二郎
澤登誠太郎　澤登照吉　花輪熊太郎

品行端正なる者八名に褒狀並に賞品を與ふ。

三月四日霜田充天を雇ひ助手とす。
三月十三日小學校督業富田精氏來校し授業を監査し調査簿を閲す。
三月廿一日澤登助十郎木盃、安藤藤吉金員を褒賞として拝授す。
三月廿三日庭園の裝飾をなし、諸木献納者六名あり。
三月廿五日所屬村兒童種痘の爲め校内を貸與す。
三月廿六日村會議員集合校舍增築の協議をなす。
三月廿九日花輪用二郎を雇授業生とす。

明治十八年度

四月二日三月中欠席せざりし生徒十一名に賞品を與へ其人名を校内に掲示す。
又懲罰を加へたるもの十數人あり。
四月三日神武天皇祭日なるを以つて業を休み謹みて遙拝す。村松高志解職、明穗村中込健一郎を雇ふて授業生となす。
四月六日竹野、小笠原、新津郡衙の招喚に應じ今諏訪まで行きしも洪水のため舟なく空しく歸る。
四月七日委員校内の障子を補綴す。
四月十日竹野、小笠原、霜田、新津郡衙に到り授業生の命を拝す。
區内に痲疹蔓延し生徒欠席を屈出ずる者陸續あり爲に昇校するもの極めて少なきを以つて其狀況を郡

衙に報告す。
四月廿二日此日郡衙よりの達を以つて校内に試驗補助員の選擧會を開く。
高點落票手塚語重、安藤藤吉。
五月三日生徒を引率し高尾山麓青根に至り体操をなし競走會を開く、會する者無慮三百名校數四箇
小笠原、榊、野々瀬及本校にして各熟否の評を下し午後四時歸散す。
六月二日月試を行ふ昨日委員增築伺書並に痲疹全癒屈書を持つて郡衙に到る。
六月十二日本日大試業施行小學督業富田精、中巨摩郡書記長田章の二氏臨場鏡中條訓導手塚語重試驗
補助として至る、受試生員百六十三名薄暮に至りて終る。
上賞を得たる者六十一名、下賞五十余名、落第四名。
六月十五日安藤訓導は試驗補助委員として三恵校に至る。
六月廿二日新館上棟式を行ふ。
七月六日中等科卒業生五名を率いて鏡中條學校に到り受驗せしむ。
臨官は中川幹督業富田精郡吏長田章なり。
七月廿一日安藤訓導甲府に至る、私立山梨教育學會の總會なるを以つてなり。
七月廿二日前日に引續き安藤訓導出席會場即徽典館に於て西村貞夫、窪實、坂根正夫三氏の演説を聞く。

八月三日本日より十日間避暑休業。
八月十一日長田章巡回す事生徒攝生に係る。
八月廿五日共有理化學機械巡回使用方に付き回章を以つて至る。
今諏訪九月十六日より十八日まで。　豊九月十九日より廿一日まで。
鏡中條九月廿二日より廿四日まで。
縣令よりの訓示書到る。
八月卅一日霜田充天の職を解き齋藤米治郎(明穂村)を雇ひ入る。
九月六日安藤訓導小笠原教育會場に赴く、議決する件左の如し。
一、開會を毎月最後の月曜日とす。
二、議題擔任者五名を選出す。
三、演説者五名を選擧す。
四郡吏の參會を乞ふ。
九月七日齋藤米次郎解職。
九月廿二日竹野授業生郡衙に於て初等科教員免許狀を受く。
十月六日博物標本箱完成す。
十月七日新館成るを以つて開業の式典を擧行す、其順序左の如し。

第一　戸長手塚繁治氏の演説
第二　校長安藤藤吉式辭
第三　生徒總代の祝辭
第四　本校學務委員祝辭
第五　隣校來賓の祝辭（四人）
第六　本校教員總代（小笠原角二郎）の祝辭
右終つて饗應に入るの順序次の如し
第一　生徒饗應（二百八十余人）
第二　村會議員伍長の饗應
別室樓上にて來賓及び本校教員饗應來賓は左の如し
戸長　手塚繁治氏
明穂村中込總左衛門氏　同村竹川房二郎氏　三恵學校訓導保坂茂吉氏　鏡中條學校訓導手塚語重氏
西野學校訓導内藤七四郎氏　今諏訪訓導澤權六郎氏
十月十九日　竹野教員豊學校七等訓導に任せらる。
十月廿五日　此日恰も本校創立十週紀年に當るを以つて全生徒の習字、圖書の優劣を判じて之を校外に列揭し其上に紙製の櫻花を連垂し鄉黨の縱覽に供ふ、夜に入りて數十の彩燈を点じたり、村民群集

實に開校以來の盛儀なりき。

十一月廿一日　本校の地位を高等に進むるの届書を縣廳に送致す。

十二月二日　日々新聞上を以つて左の公達を發せらる。

本縣甲第八十六號

明治十四年甲發八十四號布達學務委員薦擧規則は自今廢止す（十八年十一月卅日）

郡　役　所

戸　長　役　場

乙百十九號

今般甲第百十六號布達を以つて學務委員薦擧規則相廢し候に付ては從前の學務委員の事務は總て戸長に於て取扱ふべし　但一學區にして數戸長役場區域に渉るものは教育費を議定する聯合町村會若くは學區會を總理する戸長之を主理すべき議と可相心得此旨相達候事（十一月卅日）

郡　役　所

戸　長　役　場

乙第百二十號

町村立小學校幹事設置準則左の通り相定候條此旨相達し候事（十一月卅日）

第一條　小學校の事務を幹事せしむる爲め町村の便宜に依り一校若くは數校に幹事一名を設置することを得

第二條　小學校幹事の設置を要するときは戸長より其事由を具し縣廳へ伺出て認可を受くべし

第三條　小學校幹事は戸長之を進退す其俸給は一ヶ月三圓以上拾圓以下たるべし旅費日當は戸長役場諸役に準すべし

第四條　小學校幹事の給料諸費は其學區内の町村費を以つて支辨すべし

第五條　小學校幹事は戸長の指揮に從ひ左の事項を幹理する事

一、校内の庶務を幹理し校簿を整理する事

一、校費の出納及授業料徴收の事

一、校内の職員の勤怠を視察し戸長に報告する事

一、以上各項の外特に戸長より指揮する事務を調理すること

十二月十日十一日　中等科卒業受生鏡中條學校に至る。

十二月十五、十六日　中等科三級二級高四級三科生三惠學校に至り受試す。

十二月十七、十八日　此兩日本校後期大試驗にて山梨縣學務課九等齋屬士繼雄君、學務課長田章督業富田精の三君及當組合試驗補助委員手塚語重保坂茂吉の二氏臨場し試業を施行せらる、而して本校受驗生は中等科四級以下貳百七名にして創業以來受試の多きこと當期を以つて最とす。

明治十九年丙戌一月一日　安藤訓導病後竹野敎員事故を以て俱に郡衙に新年を拜賀するを果さず謹み て賀表を奉呈するのみ遙かに酒杯を擧げ　聖壽万歲を祝し太平の恩を謝す。

學生の年賀を受く

校内に　聖上陛下の尊影を安置し酒餅を献した、右に生徒の試筆を連掲し各級整列立禮を行はしめ菓子を與へて退かしこむ又中等以上の生徒を引率し戸長役場に年賀す。

村民年賀に到る者前後參差として多し。

一月五日　此日舊曆十二月一日にして水神祭なりと稱し擧りて業を休むの故に生徒午後到るものなし

一月十一日　近來四隣の村落夜として火災あらざること莫し而して其火皆矢する非ずして人の放つなりと加ふるに强窃盜俳廻し難を被ふる者亦少からず、是れ窮民の多きに因るべしと融亦敎育のまだ普及せずして罪惡廉恥の何物たるを知らざる者多きに依る乎哀哉。

一月十三、十四日　安藤訓導在學生の中昇校せざる者十五名の督責として所屬村を巡廻す。

一月廿一日　敎務委員より長田章の平簡を添へたる回章(脚夫持廻)到る其要左の如し。

本郡東西聯學區合併龍王學校に於て体操機械運動の傳習を受くること　但し一週間とす。

一月廿七日　山梨縣乙第四號（新聞にて達す）

町村立小學校授業料徵收法準備別紙の通り相定候條此旨相達候事

明治十九年一月廿五日

山梨縣令　藤村紫朗

町村立小學校授業料收法準則

一、生徒の授業料は土地の狀況に依り左の定額内に於て適宜相定め届出づべし

初等科　一ヶ月金三錢以上拾錢以下

中等科　一ヶ月金五錢以上二十錢以下

高等科　一ヶ月金十錢以上五十錢以下

一、女子小學校の授業料は下等科は初等科に上等科は中等科に準ずべし。

一、總て生徒の授業料は其月十五日以前に入學者は金額を納め十六日以後に入學の者は半額を納めしむべし、退學の者は之に反す。

一、生徒病氣其他止むを得ざる事故に依り昇校せざるものは其出席日數を十日以内は平額、十日以上は全額を徵收すべし。

但し學校の許可を得ず猥りに欠席するものは減免の限りに非ず

一月卅一日　降雪積むこと八寸生徒到る者少し、授業を起すに由なし投雪の遊戲、兎狩の運動をなす

二月四日　亞鈴大中拾壹對購求す。

二月十一日　紀元節なるを以つて休業安藤訓導郡衙に參賀す。

三月三日　西聯學區生徒大運動會に際し寄附金として職員七名にて一圓二十錢醵出す。

三月六日　安藤校長体操講習のため小笠原傳習所（久成寺）に到る。

三月十五日　小笠原角二郎敎員免許試驗を受くる爲研學として賜暇を乞ふ之を許す。

三月廿三日　此日左の訓示到る。

學第五號

當縣小學校敎則中各等科体操の樣は單に徒手運動のみ規定致し置候處右は体操擴張を要する今日に當り生徒の年齡に對し不適當の廉有之候に付きては追つて改正可致筈に候共當分の間小學中等並に高等科生徒に限り亞鈴球竿及隊列運動等併せて敎授可致此旨訓示候事

明治十九年三月十六日

山梨縣令　藤村紫郎　印

郡役所
戸長役場
町村立小學校

明治十九年度

四月六日　瀧澤河原に於て西部廿二校の大運動會を開く生徒一千余人縱覽人大凡一萬五千余盛況を呈す。

四月十四日　敎員一同午後四時より協議會を開き生徒取締欠席屆出の件を議決す。

四月十八日　安藤校長役場に到り學籍精査をなす。

四月廿日　午後より生徒百五十二人を引率し野々瀨村に到り、城山の東麓に於て体操合演をなす、小笠原、榊、江原、野々瀨四校生徒合して三百余人なり。

五月十五日　前期大試驗小學督業富田精君、試驗補助委員手塚語重君臨む又澤權六郎君を依賴し試驗補助を乞ふ。

本校受驗生中等四級以下百九十五人

七月九日　郡衙より虎列拉病蔓延の虞あるを以つて敎員に於て此際一層注意し生徒の健康を保たしめん爲豫防せしむる樣との注意にて心得書一葉を添へ照會ありたり。

此日直に生徒に冷水を飮むことを嚴禁す。

八月九日　午後高等生算術競爭會を開く。

八月十日　中等三級以上前同斷

八月十一日　中等四五六同斷

八月十四日　午後作文競爭會を開く

八月廿二日　本校に於て西野學校と聯合し岡書習字作文算術四科の競爭會を開く。

九月十八、九、廿、廿一日　小笠原驛敎育會場に聯學區廿四校の理化學敎授あり順次生徒を引率す。

十月廿四日　龜井義六、譽田義英心理學及敎育學の講習會を小笠原に開く敎員出席聽講す。

十一月一日　戸長幹事共に授業料徵收の事を生徒に懇諭す。

十一月二日　初めて授業料を徵收す。

十一月十五日　十五所組澤登助重郎氏宅を借り敎育平話會を開く、午後六時に始め十時半に終る父兄の來聽する者頗る多し、當夜出席を乞ひ談話せられたる隣校敎師左の如し。

保坂茂吉、小泉竹次郎、内藤七四郎　外三名

十二月十三日　鏡中條學校にて卒業試驗を行ふ高等優等一人、中等下賞二人及第三人。

十二月廿日廿一日　本校大試驗實施受試生二百廿二人、優等七人、上賞六十七人、落第なし。

十一月廿八日　中込健一郎桃園學校に轉ず。

明治二十年丁亥一月六日　手塚陸司朗を雇授業生とす。

一月八日　生徒に蒲團の新調を命じ併せてアンカ、火鉢携帯を禁ず、これ足寒氣堪え難きを以つてなり

一月廿八日　戸長役場にて高等小學校假設の事を議す議員皆豊校を貸付する事に賛成す。

二月十六日　教室增設の協議成る　但百五十圓内外にてなすこと。

二月廿七日　小笠原久成寺内に於て豊村外廿七ヶ村高等學校經費を決議す、經費一千五百二十圓とし各村出金は通學の遠近によりて三等に分つ　1等一〇、2等九　3等四・五　の割合

三月十六日　小笠原角次郎、花輪用次郎、花輪貞重郎、新津林二郎郡衙より授業生免許狀を受く。

三月廿日　生徒二百六人を引率なし瀧澤河原の大運動會に參加す

明治二十年度

四月一日　豊尋常小學校と稱す。

四月二日　安藤藤吉三菱尋常小學校訓導に任せらる。

四月四日　（辭令二日）澤權六郎豊尋常小學校訓導に任せらる。

四月五日　中込唯藏亦本校訓導に任せらる。

四月廿一日　生徒中三菱小學校に轉校せんことを請ふもの多し。

七月十日　本日高等小學校へ入學す可き者二十五名　内初年十五名　二年八名　三年二名届書を出す

九月二日　本校内に中巨摩西部廿七ヶ村組合高等小學校を置き始む。

十月廿一日　本日訓令第八十六號到達仝日管理者手塚繁治出張本月より授業料增額の事を生徒一同に向つて説明す。

二十年三月一日　花輪用次郎辭職申出でありて青柳與六授業生となる（辭令八日到着）

三月廿六日　本期大試驗を施行す手塚管理者出張す。

受試生百八十七名内優等（一等）九人、二等賞卅七人、三等賞二十五人、無賞及第百十四人、落第二人

三月卅一日　授業生青柳與六尋常師範學校入學試驗に及第せしを以つて解職の儀を申出づ。

明治二十一年度

四月一日　受持を定む。

四年級　竹野正春

三年級　花輪貞重郎

二年級　中込唯藏

一年級　澤登權六郎

四月四日　書物改正の報至る即ち尋常小學にありては幼學讀本簡易料は尋常讀本、算術、習字に用ふる者は各校適宜の事。

四月九日　訓導澤登權六郎辭表を差出せり澤登照吉授業生となる。

四月十九日　澤登權六郎左記之通り中込訓導に事務引繼をなす。

小生儀今般解職歸郷候に付ては校備の器械圖書々類等別紙目錄之通り貴殿に御渡申候也

澤　權　六　郎　印

明治廿一年第四月十九日

中込唯藏殿

四月二十日　本日受持改正次の如し

一年級　竹野正春

二年級　中込唯藏

三年級　花輪貞重郎

四年級　澤登照吉

五月一日　本日調によれば在籍男一九三人、女四二人。

五月三日　尋常師範學校教員田邊源兵衛氏來校して兵式歩行法に付て言あり。

六月卅日　大祓に付き休業す、六月の授業日數廿四日、昇校生徒平均一日百八十二人七分、出席歩合七十七人七分四厘。

八月廿八日　近衛歩兵上等兵澤登啓次氏の歸省に接したるを以つて一週間歩兵操練の傳習を依頼し生徒教師共に一日二時間宛其技術を學ぶ。

九月九日　上棟式を擧ぐ會する者無慮七十名(村會議員伍長村吏隣校教員)式畢つて開宴高等校長太田勉君の教育教授の區別の演説あり、三菱校長安藤藤吉君女子教育の演説あり、聽衆をして感ずる處あらしめたり。

九月廿一日　飯野仁三郎本校々長を兼任することを拜命す。

十一月五日　飯野校長受驗生を率いて龍王校に至る(以後二日)一等褒狀二人、二等四人、三等四人、

明治二十二年一月八日　昇校生男一六四人、女三四人　合計一九八人。

二月四日　吉田組に於て角力興行あり爲めに昇校生僅少なれば午後より臨時休業す。

二月十一日　憲法發布式中込唯藏參賀のため郡役所へ出張す。

二月廿一日　三菱小學校内に於て西部各校職員相會し故文部大臣森有禮公の追悼祭を營む、當校教員一同生徒總代二名出席す。

三月廿一日　一年生二年生の試驗を行ふ。

三月廿二日　三年生四年生の試驗を行ふ。

三月廿四日　證狀授與式を擧行す。

一年級　四十八名　優等　一人　上賞　十二人　下賞　廿九人

二年級　五十一名　優等　二人　上賞　十三人　下賞　十七人
三年級　四十四名　〃　九人　〃　十五人
四年級　二十七名　〃　三人　〃　十八人
及第生合計百七十人
成績優良なる兒童には金員を賞與し其金を貯蓄に充てしむ其の率は優等十五錢、上等七錢、下等三錢となす。
（學年度改正をなす）

明治二十二年度

四月四日　授業生澤登照吉尋常師範學校入學に付き解職の願出あり。
四月十三日　校内に養蠶講話會及幻燈會を開催す、講師八田達也田中元七の諸氏
四月十五日　井戸掘に着手す。
四月廿日　三惠村塚原龜作を雇入れ助手を命ず。
四月廿五日　文部省視學官檜垣直右屬官を從へ本校各教場を巡視す。
七月十二日　飯野仁三郎兼任を解き赤松定郷本校訓導を拜命す。
四月十六日　調によれば出席男一七〇人、女三二人　欠席男三三人、女一三人。
八月十六日　午前九時十五所法源寺より出欠云々。

八月廿九日　貯金高本月分三圓五十錢六厘
八月廿一日　授業生塚原龜作弘教學校に轉任、東山梨郡加納岩村平民三科章を雇聘し代勤せしむ。
九月二日　本日より各級教室日誌を記載す。
九月十六日　今後監護當直を定め毎遊歩時間監護すること。
九月廿七日　各週一回教授批評會を開くことに決す。
九月廿九日　行進中姿勢を亂り人を妨げたる者二人、留直十五分人を毆打したる者一人、留直十分に罰せられたり。
九月三十日　昇校生男百六十七人、女二十八人　計百九十五人欠席。男三十九人、女十三人　計五十二人。
十月廿七日　會同試驗受試生徒拾名引連龍王學校に至る。
十月卅一日　在校生徒二百四十九人
十一月十八日　本日授業上各級私評錄を作り之を記載し各受持をして閲覽せしむる例を出し之を實施す。
十二月廿日　赤松定郷本月十七日を以つて本校々長に任じ、月俸金拾貳圓受くべき達しありたり。
二十三年二月七日　三科雇歸省中書面を以つて辭職之儀申越たるに由り後任として臨時渡邊新治を雇聘す。

三月廿四日　より廿二日迄定期大試驗を行ふ。
三月廿四日　授與式を行ふ。受試生百八十一人、落第二人、優等十七人、上等廿九人及第百三十三人なり。

明治二十三年度

四月四日　花輪貞重郎尋常師範學校入學に付解職。
五月九日　中込唯藏三村學校訓導に轉任に付三、四年生徒をして鏡中條まで見送らしむ。
六月六日　山梨縣平民小島昇雄本校授業生となり三年級受持に決定す。
昇校生　男百二十六人、女二十六人　計百五十二人
欠席生　男　四十七人、女　十三人　計　六十人
九月廿四日　校內障子張として人足六人を傭ひ入る。
十月七日　小島昇雄家事上の都合により退職。
十月廿七日　功刀雄一郎を雇敎員となす。
十一月廿九日　本日國會開設祝賀運動を擧行し、全村を行軍し瀧澤河原に到り歸校せり。
當日本校々庭には大貝を開き國と大書したる飾物をなす。
十二月　敎育に關する勅語謄本を下賜せらる。
明治二十四年一月五日　澤登村長花輪學務委員來場職員整列の上生徒一同に勅語を與へ其拜讀會を擧

行し各生徒に例に因つて蜜柑七箱を與へ開校式を了せり。
一月六日　昇校生　男一二一　女五五計一七六　欠席生　男二二　女二四　計四六
三月十九日廿日　大試業を施受試生百七十五人

內　優等生　參拾貳人
上賞生　五拾參人
及第生　九拾　人

明治二十四年度

四月十七日　校長赤松定鄕睦澤尋常學長に轉任す。
五月廿九日　西部高等小學校長太田勉本校々長兼任の辭令あり。
六月廿七日　雇授業生渡邊新治を解職す。
七月一日　石原素太郎に雇授業生を申付く。
七月十一日　岸本保治を雇授業生に任用す。
八月二日　授業料第三年級二人分金貳拾錢收入あり。
十月廿日　第四年級誰某運動場の中央に小便せしに因り訓誡を行ふ。
十月三十日　午前十一時三十分より零時二十分まで高等小學校に於て敎育勅語奉讀會を行ひ聊か紀念を祝す。

十二月十四日　豊村長（管理者）澤登助重郎退職、澤登喜治就任す。

明治廿五年一月七日　在籍兒童調

出席生　男一二五　女三八　計一六三

欠席生　男五七　女八　計六五

二月四日　乙第二號を以て學校教員取締方の義に付達あり。

三月廿二、廿三日　定期大試驗施行

受驗生　一年生　六十二人

二年生　四十六人

三年生　四十九人

四年生　三十四人

明治二十五年度

四月一日

出席生　男一三〇　女三五　計一六五

欠席生　男二九　女九　計三八

受持を定むること左の如し

一年級　竹野正春

二年級　岸本保治

三年級　石原素太郎

四年級　功刀雄一郎

五月八日　入學願一葉古帳簿の間に存す參考の爲左に示す。

入學願

中巨摩郡豊村何番戸（平民）

何某何男

何　明治　年　月　日生　誰

右之者儀今般貴校へ入學相願度御許可之上ハ規則堅爲相守可申ハ勿論授業料其他本人ニ關スル一切之事件ハ必ズ引受處辨可致候間此段奉願上候也

明治廿五年五月八日

右　保證人　何　某　印

豊尋常小學校長　太田勉殿

五月十六日　雇石原素太郎病氣により退職澤登敬重雇教員となる。

六月四日　竹野正春本科正教員勤務の辭令を傾す。

當時の授業料左の如し

一年　五錢　二年　七錢　三年　十錢　四年　十錢

八月一日　准訓導功刀雄一郎本日より尋常師範學校内に開設する教員講習會に至る、

但八月三十一日まで

十月十七日　通常父老會第三會を開く。

十一月十五日　本日太田勉本校訓導兼校長岸本保次本校訓導本科正教員勤務の辭令書を領す。

十二月一日　來る四日教授細目編纂に付參會方通知あり。

明治廿六年一月四日　本校職員次の如し

松長太田勉、訓導竹野正春、仝岸本保次、准訓導功刀雄一郎、雇澤登敬重。

村長澤登喜治、學務委員花輪與兵衛、仝五味正資、仝河野清太郎、仝名取傳之丈。

三月廿四、廿五日　定期進級試驗施行　計百九十六人

明治二十六年度

四月七日

出席生　男一一二　女四一　計一五二人

欠席生　男　四七　女一一　計　五八人

四月十七日　郡視學西脇文夫中村滿壽惠之二員參校視察せらる視學制度施行第一歩の視察なり。

四月廿五日　雇三澤久雄本日より出勤

五月十六日　准訓導功刀雄一郎本日本校本科正教員勤務俸給金八圓を任命せらる。

五月廿四日

兩陛下御眞影御下賜に付村長澤登喜治校長代理竹野正春奉迎のため郡衙に出頭駐在巡査竹内貢護衛す

訓導功刀雄一郎仝岸本保次雇三澤久雄生徒一同を引率村界に出張奉迎す。

常設學務委員村會議員及區長仝代理者一同村界に奉迎す、而て一定の場所に奉安し拜賀式を畢つて生

徒一同に茶菓村吏其他參拜人一同直に宴を張り歡を盡して散會す。

明治廿七年三月九日　今上皇后兩陛下御結婚滿廿五年佳儀を奉祝し、職員生徒村吏員一同拜賀す。

三月十二日　本校正教員一同兩陛下大婚滿二十五年の御祝典の恩儀を蒙り酒饌料金二十五錢宛賜はる

三月廿六、廿七、廿八日　定期大試驗を施行す。

明治二十七年度

四月九日

出席生　男一三七人　女四一人　計一七八人

欠席生　男　五四人　女一九人　計　七三人

五月廿三日　明穗村武川市太郎を本校雇教員とす。

明治廿八年乙未一月七日

出席生　男一三六人　女五一人　計一八七人
欠席生　男　五三人　女二〇人　計七三二人

二月廿二日　三惠村十日市場に於て征清從軍二等兵内藤惣次郎氏葬祭に付全員引率教員一同會葬す。

三月廿五、廿六日　定期大試業を施行す。

優等　七十一人　上賞　七十四人　上等　六十四人

明治二十八年度

四月五日

生徒出　男一二六人　女三九人　計一六五人
生徒欠　男　三二人　女一八人　計　五〇人

五月十日　鏡中條村出身陸軍後備歩兵堀内勝之甫氏葬儀に付全校會葬す。

六月十二、十五、十六、十七日　本村從軍兵士歸郷に付歡迎として午後より今諏訪渡船場に至る。

七月五日　本村十五所區出身兵士後備歩兵上等兵花輪捨五郎氏病沒せしを以つて其葬儀に教員生徒全員會葬す。

七月七日　明穗村出身近衞砲兵藤要造君の葬儀に教員生徒會葬す。

七月十一日　落合村出身兵深澤文吉氏の葬儀に職員生徒總代會葬す。

七月十四日　在家塚村出身兵士齋藤兼平氏の葬儀に生徒職員一同會葬し弔旗を贈る。

七月廿四日　澤登出身砲兵齋藤金太郎氏凱旋歸郷を今諏訪まで出迎ふ。

八月四日　凱旋兵士保坂清治郎、名取儀市兩氏を郷社諏訪神社前に歡迎す。

八月九日　上今井出身歩兵青柳林太郎君の歸郷を一同にて歡迎す。

八月十六日　雇武川市太郎西野尋常小學校に轉任す。

吉田出身後備兵凱旋を鏡中條渡船場に歡迎す。

八月二十一日　澤登出身兵士凱旋歸郷に付き教員生徒全員今諏訪村に至り歡迎す。

九月十三日　百田村病歿兵士葬儀に職員總代會葬す。

九月廿五日　長谷部數一臨時雇として授業を補佐せしむ。

九月廿八日　御影村出身軍人小澤松吉葬儀に付總代會葬す。

九月三十日　訓導功刀雄一郎療養効なく逝去す。

十月三日　故功刀訓導葬儀に付教員上級生一同會葬す。

十月十一日　榊村出身近衞上等兵堀内長七氏葬儀に付き總代會葬す。

十月廿七日　明穗村出身近衞歩兵二等卒齋藤幾太郎氏葬儀につき教員生徒總代會葬す。

十月卅一日　五明村出身岩間盛五郎出征中病歿せしにより總代會葬す。

十一月十一日　故北白川宮殿下御埋葬祭に付午後休業し哀悼の意を表す。

十一月十九日　本村上今井區出身輜重兵小林只五郎氏葬儀に付教員生徒一同會葬す。

十二月二日　吉田區出身二等軍曹河野新治郎氏葬侍に付一同會葬す。

十二月六日　吉田區出身近衛歩兵名取勝治郎氏凱旋歸郷に付歡迎のため全員鏡中條村境に到る。

明治廿九年丙申一月六日

出　席　男一四三人　女五四人　計一九七人

欠　席　男　四一人　女三六人　計　七七人

三月廿六日本日正午より本校に於て凱旋兵士慰勞會を開催す。

定期大試驗を施行す

明治二十九年度

四月七日

出　席　男九七人　女三二人　計一二九人

欠　席　男六二人　女四六人　計一一二人

四月三十日雇長谷部數一教育講習會に入會に付解職す。

五月一日　澤登嘉幸本日より本校雇教員に任用す。

五月四日　田之岡村清水泰作を本校臨時教員に雇ふ(六月十四日解傭)

五月七日　本村衞生講話會を本校内に開く。

六月廿二日　十五所出身近衞工兵花輪兵吉氏病歿葬儀に付教員生徒一同會葬す。

九月十八日　校長太田勉東八代郡視學拜命本校を辭するを以つて生徒一同に離別の詞あり。

十月十一日　南湖村出身兵士葬儀に總代會葬。

明治三十年乙酉一月五日

出　席　男一五九人　女六五人　計二二四人

欠　席　男　三九人　女五一人　計　九〇人

一月十三日　皇太后陛下御崩御に付本日より五日間謹んで休業。

一月三十日　孝明天皇三十年祭遙拜式を擧行す。

二月七日　英照皇太后御埋葬祭に付謹んで奉弔す。

二月廿五日　雇澤登嘉幸進學のため上京小泉福次郎本日より臨時雇として聘用さる。

三月八日　明治三十年度本校經費豫算の學務委員會を開く。

三月廿五、廿六日　定期大試驗を施行す。

受試生二百七十三名　優等八十四名　上賞九十八名

明治三十年度

四月六日

出席　男一四四人　女七〇人　計二一四人

欠席　男　二七人　女五四人　計　八一人

六月廿五日　本日兩陛下奉安宮落成に付役場樓上に奉安す。

九月一日　雇芦澤利次徴兵合格の爲め解職屆を出す。

九月三日　北村宇七郎を當校准教員に任用す。

九月六日　霜田一敞雇教員として出勤す。

九月八日　本校內に赤痢病患者發生に付本日より十一日間休業す。

十一月一日　雇教員北村宇七郎退職す（十一月十日留任に決す）

十一月五日　清水泰作を本校雇教員に聘備す（十一月七日辭職を申出す）

明治三十一年一月十一日

英照皇太后御一年祭に付敬悼の意を表し謹んで休業す。

二月十六日　葉煙草專賣法及仝施行細則講話會を當校に開備す。

三月廿五日、廿六日　定期大試驗を施行す。

三月卅一日　卒業式卒業者六十四名の內美賞十名、良賞二十一名、修業生二百三名の內美賞八十人、良賞七十五人

精勤證を得たるもの五人、品行端正證を得たるもの五人、不合格者一人なり。

明治三十一年度

四月五日

出席　男一二七人　女七八人　計二〇五人

欠席　男　二二人　女三四人　計　五六人

入學生　一五名

四月七日　川手新太郎本校准訓導を拜命す。

四月九日　雇小泉福次郎、霜田一敞の二人解職す。

七月十二日　醫師奥田、桑嶋の二氏出張仝生徒の体格を驗診す。

八月十日　青柳與六本校々長に就職せり。

九月七日　昨夜來の暴風雨にてか昇校生員僅少なりしを以て運動の爲め今諏訪分內釜無川に生徒一同を引率見物す。

十月六日　縣下水難者救恤義捐金を校中生徒より募集す。

十一月五日　岸本訓導逝去葬儀に付全職員生徒總代會葬し造花一對を送る。
明治三十二年二月訓導竹野正春自今月俸拾貳圓給與の辭令を受領す。
三月四日　篠原猪熊本校訓導を拜命す。
三月九日　雇飯野清雪退職す。
三月廿三、廿四日　定期大試驗を施行す。

明治三十二年度

四月五日

出席　男一〇六人　女四六人　計一五二人
欠席　男　三〇人　女三三人　計　六六人
入學生　男三八　女四八

四月十一日　本村小泉福次郎氏を聘し本校雇教員たる事を囑託す。
六月三十日　准訓導川手新太郎退職の件差許さる。
八月三十一日　校長青柳與六西野高等小學校に轉任、訓導竹野正春本校々長兼任を命せられ、北村田朗(二十九日附)本校正教員に任せらる。
十月三日　藤島神社奉讃會義捐金勸誘あり。
十月十八日　本校々庭に歸休軍人點呼擧行に付臨時休業。

十一月十三日　訓導篠原猪熊退職の辭令を受く。
十二月廿三日　第三期小試驗施行す受試員左の如し。

第一學年　男　三五人　女二〇人
第二學年　男　三七人　女二一人
第三學年　男　二五人　女二〇人
第四學年　男　四二人　女一二人
合　計　男一三九人　女七三人

明治三十三年二月十七日　山梨縣訓令第四號を以つて小學校教員服制規定さる。
二月廿二日　大日本蠶糸會山梨支會講話會を開く。
三月廿二日　本日より三日間定期大試驗を擧行す。

明治三十三年度

四月四日

出席生徒　男一一九人　女七六人　計一九五人
欠席生徒　男　一九人　女二六人　計　四五人
入學者　十五名なり

四月十日　准訓導小泉福次郎辭職す。

四月十八日　百田村竹内新次を聘し雇教員とす。
五月二日　皇太子殿下御慶事の唱歌送附あり。
五月十日　皇太子殿下御慶典に付職員生徒拜賀す。
五月廿四日　より五日間校醫青木藤治郎春季体格檢査を施行す。
五月廿七日　雇竹内新次解傭書信來る。
六月五日　三十三年度學校一覽表を郡衙に提出す。
六月廿七日　生徒身体檢査統計表を報告す。
六月廿八日　風琴(二百圓)傘購入に關し學務委員會を開く。
七月三日　本校々長三枝正哉(後伊藤)本日赴任事務引繼をなし教授上受持の變更をなす。

尋常第四學年	三枝校長		
尋常第三學年	北村訓導		
尋常第二學年	名取雇		
尋常第一學年	竹野訓導		

八月一日より三十一日造暑中休暇をなす。
九月廿二日　小學校授業時間規定により土曜日は正午を以つて放課することを今週より實施。
十月十五日　菅公會寄附金を募集す又教室備付寒暖計四箇購入す。

十月二十二日　計數器附屬繪及珠算教科書を買入る。
明治三十四年一月一日午前七時職員生徒一同講堂に參集し新年拜賀式を行へり、本日參列せし吏員は保坂村長、小笠原助役澤登、齋藤兩書記、學務委員名取傳之丈、五味正資、名取豊七、花輪德太郎氏等なり、式終りて生徒に茶菓を與へたり、式場次第左の如し

第一點鐘　生徒職員着席
第二點鐘　村吏員着席
第三點鐘　御影開扉

一、最敬禮
二、拜賀
三、唱歌
四、校長演辭
五、最敬禮
閉扉　以上

一月五日　學務委員會議を開き學校設備及高等併置等に付き議せり
二月一日　一月三十日附縣令第三號を以つて小學校令施行に關する規程を發布せり。
二月二十一日　校長三枝正哉校地附近圖を作る。

郡訓令第二號を以つて子守教育に關する施設方法の達あり。
三月二十日　校長三枝正哉生徒四名を引率し生徒奬勵賞授與式に出頭。
三月廿八日　卒業並に修業生に對し證書授與式を行ふ。

明治三十四年度

四月一日　在籍生徒男百七十一人　女百三十三人
五月一日　皇太孫御降誕に付奉祝の意を表して休業す。
十月十四日　午後七時より教育講話會開催通告簿用方、家庭教育、社會教育の三題なりき。
十月十五日　教育幻燈會を開し會するもの無慮一千名。
映書兩陛下、教育勅語　十六枚
女子教育　十五枚
二少年の榮枯　十五枚
十二月二十二日　風琴(オルガン)到着す。

明治三十五年度

明治三十五年二月廿八日　校醫平岩永治人体模型につき講話をなす。
三月二十二日　父兄懇話會を開き家庭と學校との連絡を謀り終りて茶話の饗應を呈す。
三月廿三日　本校に於て本校卒業生同窓會發會式を行ふ。

四月一日　津久井みさほ本日より雇教員を命せらる(五月卅一日代用教員任命の辭令)
八月二十一日　縣令第五拾五號を以つて實業補習學校に關する件達せらる。
十月二十五日　本校創立第廿六回記念式を擧行し、終つて運動會を開催し生徒に賞品及茶菓を與ふ。
十一月十五日　本校に於て通俗教育講話會を開く。
明治三十六年三月廿八日午前九時より本校卒業證書授與式を擧行す。

明治三十六年度

十月五日　代用教員河西市九郎就職せり。
十月十九日　校長伊藤正哉圓野尋常高等小學校訓導兼校長は轉任の命を受く。
十月廿三日　新任校長山田辰三郎赴任披露をなせり。
十一月十八日　山田訓導音韻口語法取調のため百田學校へ出張す。
十二月三日　代用教員津久井みさほ依願免職の辭令に接す(以後職員進退は一覽表による)
明治三十七年一月十六日　本校に於て第三分會教育總會を開催す。
二月八日　校長山田辰三郎學務委員となる。
二月十六日　日露宣戰布告の詔勅奉讀式を擧行す。
二月廿六日　學校衞生上各教室へ唾壺を備ふ。
三月十一日　勤儉貯蓄に關する意見書を郡役所に提出す。

尋常科第四學年花輪しげよ金壹圓を軍資金中へ献納致度旨申出でられしに依り傳達方を取計ふ。

明治三十七年度

四月十三日　生徒三百二十名に杉松の苗木を栽えしめたり。

松　一百六十五本

杉　四百三十二本

四月二十八日　野外教授午前八時半全校兒童を引率し小笠原、大井、三恵の勝地を選びて地理科、体操の教授をなし午後一時半無事歸校す。

五月九日　二部教授廢止の件認卿せらる。

五月十八日　學甲第二二號を以つて學務委員四名へ各區の學籍兒童名簿を交付せり。

五月十九日　本館内に麥稈眞田製法講話會を開き三學年以上の兒童にも聽講せしめたり。

五月卅一日　七學級編成を六學級に變更せり。

七月廿一日　麥稈眞田展覽會を當校西分館に開く、午後二時より本館にて該證書授與式を擧行し大山知事、河村書記官臨場す。

八月一日　中巨摩郡教育支會にて本日より十日間左記講習會を開く。　會員六十名

一、昆虫學　川端九一郎氏

一、体操遊戲料　鈴木民美氏

八月十二日　訓令甲第五十一號を以つて生徒の使用する「コビールビオレット」「リラビオレット」「ヨハンコビール」「ハ、ツエ、クルクコビール」の記號ある紫色鉛筆は有毒なるを以つて之が使用を禁ずる旨達せられたり。

九月一日　所屬上今井及十五所區に赤痢病蔓延の兆候あるを以つて該部局に限り本月一日より一週間左の兒童の出席停止を命じたり。

兒童九名

九月五日　遼陽占領の報に接したる故祝捷のため一時間郊外運動をなす。

十月七日　故石川砲兵中佐の遺骨出迎として上今諏訪神社前に至る。

十月十日　石川嘉三郎中佐の郡葬に會合のため山田校長出張す。

十一月廿七日　百田村出身小野歩兵大尉の葬儀に山田校長會同す。

十二月十五日　隣村出征戰歿兵士飯野村中込寅二郎氏の葬儀に會葬のため山田校長兒童總代七名を引率し午前十一時半式場へ赴けり。

明治三十八年一月三日　旅順口陷落の報に接したるを以つて校庭に之れが祝捷會を開く、會するもの千余名午前九時式を了へ夫れより旗行列をなし村内を一周し午後四時歸校兒童に菓子を與へて解散す

三月十八日　校庭に於て奉天其の他の戰勝祝賀會を擧行せり。

三月廿五日　縣廳より下附せられし戰捷記念木ギダーピーナス(三葉松)五本及樺苗五本を校庭に樹栽

せり。

三月廿九日、三十日　榊村高尾山御料地字太平山に杉苗三千五百本落葉松一千二十一本職員生徒にて植樹す。

明治三十八年度

四月九日　校長山田辰三郎兒童總代三名を引率して飯野村戰歿軍人葬儀に列す。

四月十五日　訓導北村田朗生徒總代を引率し鏡中條村戰歿兵士葬儀に會葬す。

五月六日　本村出身築野兵士の遺骨出迎として山田校長兒童總代四學年生を引率して村境まで出張せり。

五月三十日　職員五名三年以上の兒童を引率し甲府議事堂内に開設せる戰利品展覽會を見學す。

七月十六日　西野村軍人は葬儀立會として山田校長生徒四名を引率す。

七月三十日　本村出身軍人軍曹築野義治仝上等兵保坂米治郎仝上等兵中島美廣三氏の村葬を校内に擧行す。

十月十一日　第三、四學年生薫座に開催中の本郡教育支會の兒童製作品展覽會を參觀す。

尋一、二學年　仝上(十二日)

十月十一日　第三學年以上御勅使川原聯合運動會に參加す。

十二月十九日　軍屬名取榮重本日其の葬儀に參同す。

明治三十九年三月十一日　師範學校教頭能勢賴俊氏講師として當校に來られ教授術の講習をなす。

三月二十八日　證書授與式を擧行す。

卒業生男三十名、女二十一名　(學校樹栽地に植樹す)

明治三十九年度

四月二日　入學式を擧行す、入學生九十一名。

四月四日　受持を定むること次の如し

第四學年	北村訓導	仝　女子	竹丘訓導
第三學年	竹野訓導	二學年男子	河西教員
第二學年女子	佐野訓導	一學年男子	小池教員
第一學年女子	山田校長		

四月二十日　凱旋記念碑を校地内に建て月桂樹一本を植る。

四月廿一日　山田校長は郡役所に出頭し左記辭令を受く。

一金拾圓也　學事奬勵規程第四條に該當するものと認め頭書の金員を賞與す。

六月五日　學校基本財産蓄積法として麥、果實及繭の寄附を受け品評會を開くことを協議す。

八月廿三日　中巨摩教育支會開催に係る夏季体操講習會を開く、講師高橋先生(七十名五日間)

八月廿六日　豊村第一回農産物品評會褒賞授與式を開催す、小林郡長飯田課長臨場す。

九月十日　清川小學校流失見舞金七圓六拾壹錢五厘を教育支會に送達す。
九月十五日　本校第二學年女子書方授業をなし之が批評會會及公共心涵養の方を協定す。
十月十八日　一府九縣聯合共進會參觀のため甲府に遠足をなす。
十一月七日　西吉田區に於て教育懇話會を開催す。（十一日上今井、十二日澤登新田、十四日澤登、十五・六・七日十五所）
明治四十年一月十三日　訓導野呂瀬退作、准訓導中澤登啓造は地理、歷史材料蒐集として村內各區の神社佛堂の狀況視察を兼ね出張し、山田校長は同件整理のため昇校す。
二月一日　本縣師範學校山本教頭及澁谷、憲兵外一名生徒二百余名發火演習の途次立寄られ約一時半休憩せられたり。
三月十三日　山田校長郡衙より左の辭令を受く。
山梨縣中巨摩郡豊尋常小學校長山田辰三郎明治三十七八年戰役中職務格別勉勵勤勞不尠候に付其賞として金參拾圓給與
明治三十九年三月一日
三月二十八日　證書授與式

明治四十年度

四月十一日　兒童出席　男一六八人　女一七六人　計三四四人

第一學年兒童二部教授の件認可せらる。
春期播種すべき花莽十數種を校庭に實施す。
トラホーム患者に点藥すること隔日と定む。
五月二十八日　學收第七三號の一號を以つて新小學校令施行心得の示達ありたり。
六月十一日　校舍新築を始め先づ東分館取毀しのため教室の異動を生じ、夫々配置宜しきに從ひ兒童を收容したり。
六月十八日　戰役戰利品を下賜せらる。
七月二十七日　床次內務省地方局長屬官數名を從へ午前八時來着仝九時半藤田村に向ひ出立せり。
十二月十六日　山田校長學務委員其他六名のものと學校建築視察のため甲府市穴切、湯田兩小學校に到る。
明治四十一年二月二十六日　來る四月入學すべき五學年兒童の勸誘方に付いて上司より指令あり。
（年限延長）
三月增築校舍竣工す。

明治四十一年度

四月一日　校庭に兒童を集合し入學式を擧行す、入學兒童百余名
出席兒童　四二五人（男二一三人　女二一二人）

欠席兒童　一六人（男一人　女一五人）

四月三日　增築校舍落成式を擧行す。

來賓として小林本郡長、茂手木縣視學、飯田書記、山本々郡視學、小田切郡書記、小笠原警察分署長飯野專賣所出張所官吏を首とし隣村々長、隣校々長等約七十名有志百余名午前十時山田校長の合圖の下に君が代の唱歌を合唱し次で

勅語奉讀　小笠原村長の開會の辭、知事代理小林郡長の祝詞、茂手木縣視學の諭示、隣村校長の祝辭新築に就ての賞與、小笠原村長、山田校長、兒童總代の三答辭、落成式の祝歌等ありて午後零時祝砲を合圖に無事式を竣れり、夫れより別席に於て祝宴を開きたり。

記念額面としては

「豊學校」　文部大臣男爵　牧野仲顯

「成就德品」　本縣知事　武田千代三郎

「克忠克孝」　本郡長　小林陽

餘興としては豊村實測地圖兒童の成績品、人体模型等の出品物を四教室に陳列し從覽せしむ。

其の增築せし重要なる事項を擧ぐれば

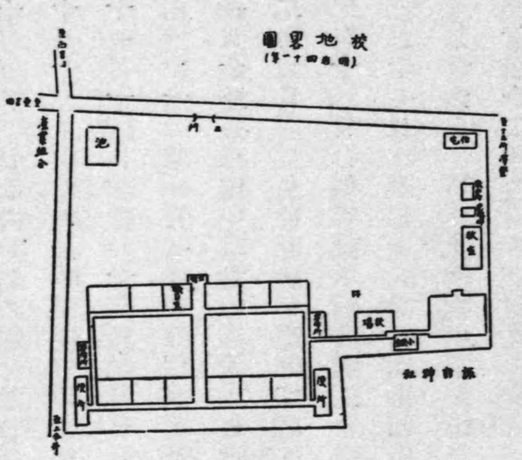
一、校地　千四百四十五坪

二、教室　二百二坪五合　內廊下分百六坪五合

三、便所　三十坪　內廊下分六坪

四、物置　二坪

計　千七百七十九坪五合



校地實圖

工事壹萬貳百八拾六圓七拾錢

五、校圖　平家建　間口三十間半、奥行十七間

六、學園　二字形　其の間に二百二十八坪の學園を設く

七、貯水池　三十二坪　縦八間、横四間

八、周圍の狀況　杉苗の生垣を繞らし假に矮柵を添へたり

上圖の如し

四月二十日　明治三十七八年戰役の際の本村出身軍人の凱旋記念を永久に傳へる碩碑前に第二次記念式を擧ぐ

四月三十日　高等科併置の件認可せられ豊尋常高等小學校と改稱せり。

六月三十日　教員の住宅建設を議決し設計の上請負はしむ。

七月二日　高等科に農業科加設の件認可さる。

八月十三日　本日より十日間當校に於て圖書手工の講習會を開く。

十月一日　展覽室を新設し兒童學藝品を陳列し公衆の縱覽に供せり。
十月五日　新設井戸の堀鑿を始む。
十月十日　山田校長學事視察の命を帶び東京、栃木、福島、宮城に向け出張す。
十一月十三日　客月十三日煥發せられたる戊申詔書奉戴のため郡役所に出頭す。
明治四十二年一月一日　拜賀式を擧行し、戊申覽書略解一部宛を附與せり。
一月十三日　戊申覽書の捧讀式を行ふ。
二月六日　父兄懇話會を開催す。
二月十二日　婦德講習會發會式を擧行す。
三月十一日　本日より四日間舊舘に於て蠶業講習會を開く。
三月廿六日　卒業證書授與式を擧行す。

明治四十二年度

四月十五日　婦德講習會證書授與式を擧行し、裁縫並に手工品三百余点を展覽し衆庶の縱覽に供したり。
四月廿三日　甲府市に開催中なる動物園觀覽のため尋常四學年以上の兒童を引率す。
五月廿七日　本日より六月五日まで養蠶休業　（尋五以上）
十一月四日　故樞密院議長伊藤博文の國葬當日に付き講話をなし休業す。

十一月九日　昨日より果樹園落花生の採取に從事せり。
十二月十一日　第三第四教育分會聯合教育會を本校に開催す。

明治四十三年二月十二日　父兄懇話會を開く。

學藝會、成績品展覽、懇談福引をなす。尙「教育の價値」といふ印刷物を發布す。
二月十五日　本日より中等學校入學者のため放課後特別授業をなす。
二月十六日　尋常科第五學年以上に甲斐地圖及地質圖の印刷物を配布す。
二月廿一日　通俗教育講演會を開催す（大島中學校長）
二月廿二日　思田博士果樹樹栽法講話會を開催す。
二月廿五日　豊村が內務大臣より選奬の光榮に浴す。
三月廿六日　中巨摩教育支會表彰兒童奬勵授與式を本校に擧行す。

明治四十三年度

四月一日　入學式及始業式を行ふ。

出席兒童	尋常	男二五九	女二八五	計五四四	
	高等	男四六	女五	計五一	
欠席兒童	尋常	男二〇	女三四	計五四	
	高等	男一	女—	計一	

四月十四日　桃及梨各一本宛を一學年兒童に頒つ。

十月一日　展覽室を新設し兒童學藝品を陳列し公衆の縱覽に供せり。
十月五日　新設井戸の堀鑿を始む。
十月十日　山田校長學事視察の命を帶び東京、栃木、福島、宮城に向け出張す。
十一月十三日　客月十三日煥發せられたる戊申詔書奉戴のため郡役所に出頭す。
明治四十二年一月一日　拜賀式を擧行し、戊申覽書略解一部宛を附與せり。
一月十三日　戊申覽書の捧讀式を行ふ。
二月六日　父兄懇話會を開催す。
二月十二日　婦德講習會發會式を擧行す。
三月十一日　本日より四日間舊館に於て蠶業講習會を開く。
三月廿六日　卒業證書授與式を擧行す。

明治四十二年度

四月十五日　婦德講習會證書授與式を擧行し、裁縫並に手工品三百余点を展覽し衆庶の縱覽に供したり。
四月廿三日　甲府市に開催中なる動物園觀覽のため尋常四學年以上の兒童を引率す。
五月廿七日　本日より六月五日まで養蠶休業（尋五以上）
十一月四日　故樞密院議長伊藤博文の國葬當日に付き講話をなし休業す。

十一月九日　昨日より果樹園落花生の採取に從事せり。
十二月十一日　第三第四敎育分會聯合敎育會を本校に開催す。

明治四十三年二月十二日　父兄懇話會を開く。

學藝會、成績品展覽、懇談福引をなす。尙「敎育の價値」といふ印刷物を發布す。
二月十五日　本日より中等學校入學者のため放課後特別授業をなす。
二月十六日　尋常科第五學年以上に甲斐地圖及地質圖の印刷物を配布す。
二月廿一日　通俗敎育講演會を開催す（大島中學校長）
二月廿二日　思田博士果樹樹栽法講話會を開催す。
二月廿五日　豊村が內務大臣より選奬の光榮に浴す。
三月廿六日　中巨摩敎育支會表彰兒童奬勵授與式を本校に擧行す。

明治四十三年度

四月一日　入學式及始業式を行ふ。

出席兒童	尋常	五四四	男二五九	女二八五
	高等	五一	男四六	女五
欠席兒童	尋常	五四	男二〇	女三四
	高等	一	男一	女—

四月十四日　桃及梨各一本宛を一學年兒童に頒つ。

五月二十日　故英國皇帝エドワルド七世の大葬日に相當するを以て弔旗を掲げ遙拜の式を擧げたり。
七月十六、十七日　第三、四教育分會の圖書科講習會を本校に開く。
八月二十日　卒業生徒學資貸出規程及び在學兒童奬勵規程を設く。
九月十三日　長坂郡視學來校し高等二學年及尋常六學年の國語算術の考査をなす。
明治四十四年一月一日　圖書舘開館式を行ふ。
二月二十八日　高等科一、二學年修學旅行として川手、三井兩訓導附添身延山地方に一泊せり。
三月十日　校庭に於て戰歿病死軍人のために招魂祭を擧行す。
三月廿五日　中巨摩教育支會の事業に係る奬勵兒童の表彰式を本校内に開く。

明治四十四年度

四月一日　始業式及入學式を行ふ終りに入學兒童の記念撮影をなす。
四月二日　養蠶講話會を校内に開く講師八田翁山野養蠶學校長なり。
六月五日　午前十一時より准教員養成所始業式を行ふ。
七月九日　學校新聞の編輯をなす。
十一月三日　謹奉賀天長節
展覽會及餘興會を開く參集約二千人
明治四十五年二月廿五日　第二回選奬令書記念式を行ふ。

三月廿二廿、三日　教員養成所證書授與式擧行。
三月廿四日　奬勵兒童表彰式を擧行。
三月廿五日　第三十二回修卒業式擧行。
三月廿九日　御來峽中の
皇太子殿下奉送迎のため山田、川手、小笠原の三訓導尋五以上の兒童を引卒して小井川村に至る。

明治四十五年度

四月一日　始業式及入學式を行ふ

出席兒童	尋常	男二七一	女二八〇		
	高等	五五一	男 三六	女 一六	六
欠席兒童	尋常	男 一三	女 六三		
	高等	五 男	三 女	二	

七月十日　職員會議を開き左の件を決議す。
一、郷土地誌編製の件
二、夏季休業中兒童點呼の件
三、休暇日誌を課する件
四、麥飯奬勵の件
五、習字草紙を一定するの件

六、貧困兒童に學用品を給するの件

七月廿五日　天皇陛下の御病氣御平癒の祈願をなす。

七月廿九日　本日終業後諏訪神社に於て聖上陛下の御平癒の祈願をなし村民一同及學校職員兒童一同會同す。

七月三十日　本日午前零時四十三分

天皇陛下御崩御遊ばさる謹みて哀悼の意を表す。

皇太子殿下御踐祚あらせらる。

八月一日　兒童を召集して大行天皇の奉悼式を行ふ。

九月十三日　明治天皇大喪儀遙拜式を行ひたり、十四、十五兩日は臨時休業す。

十一月六日　明治天皇百日祭遙拜式を執行し了りて佩用中の喪章を撤せしめたり。

十一月十日　秋期遠足をなす。

尋六以上　男樹栽地太平山

〃　女山縣大貳先生の墓所へ

尋三、四　市之瀨發電所

尋一、二　釜無川より長遠寺

大正二年一月十六日　「寒中衞生と蜂方」といふ通信を各兒童を通じ保護者に發布す。

二月廿五日　令書記式及青年會發會式を擧行す。

三月廿四日　中巨摩敎育支會奬勵兒童表彰式を本校に開催す。

養成所生徒修了式をも開く。

三月二十七日　修卒業兒童證書授與式を擧行す。

大正二年度

四月一日　始業式及入學式を擧行す。

四月十四日　山田辰三郎田富尋常高等小學校訓導兼校長に轉じ鮎川豐三郎本校訓導兼校長に仕せらる

七月十七日　有栖川宮威仁親王殿下國葬當日に付遙拜式を行ふ

七月三十日　明治天皇御一週年遙拜式を擧行す。

十月廿五日　鮎川校長川越に開催の關東聯合敎育會へ本郡代表として出席す。

十月三十日　甲府市琢美小學校內に開催せる全國敎育品展覽會に兒童を引率見學す。

三月卅一日　本校訓導竹野正春退職す。

大正三年度

四月一日　始業式及入學式擧行。

四月十一日　皇太后陛下午前二時十分御崩御あらせられ謹みて哀悼の意を表す。

四月十三日　遙拜式を擧行し謹話をなす。

五月二日　左記に遠足をなす
　五年以上　高尾山穗見神社
　三年以上　榊小學校
　二年以下　大和川
五月廿四日　照憲皇太后陛下御喪儀遙拜式擧行奉悼の意を表す。
五月廿九日　若林本縣知事來校
六月二日　鮎川校長全國敎育大會に出席のため上京す。
九月十日　本村諏訪神社に於ける日獨宣戰奉告祭に職員兒童參列す。
十月十六日　御嶽仙峨瀧及甲府市に修學旅行をなし一泊す(尋六以上)
尋三以上小室山、尋二昌福寺、尋一南明寺。
十月卅一日　元本校訓導竹野正春先生の表彰式を擧行す。
表彰狀並に記念品(第一回五分利公債額面三百圓)を贈呈す。
十一月八日　靑島開場(七日午前七時)の祝意を表するため旗行列をなし出征軍人の宅を廻る。
十一月十九日　三井訓導中等敎員(敎育)に合格せり。
十一月二十日　去る三日在鄕軍人團に御下賜相成りたる勅語捧讀式を本校々庭に擧行せり。
十二月二十日　鮎川校長は兒童總代を引率し鏡中條村出身戰歿兵葬儀に會せり。

大正四年二月十五日　本日より六日間に渉り母姉會及學藝會を擧行す。
三月十一日　恩賜林記念日に付遙拜式を擧行す。

大正四年度

四月一日　始業式並に入學式を擧行す。
入學兒童尋一　百十三名　高一　三〇名
四月五日　學級受持を定むること次の如し

尋一ノ一	津久井	訓導
〃　二	花輪	准訓導
尋二ノ一	中山	准訓導
〃　二	小林	訓導
尋三ノ一	小坂	訓導
〃　二	風間	敎員
高等科　三	井	訓導
尋四ノ一	齋藤	訓導
〃　二	近藤	敎員
尋五ノ一	手塚	訓導
〃　二	志村	准訓導
尋六ノ一	小笠原	訓導
〃　二	櫻井	訓導

四月十一日　照憲皇太后御一週年祭を擧行す。
四月十三日　本校兒童帽子徽章を左の如く定む。
　梨花上豊浮彫眞鍮　一ヶ二錢五厘
四月十七日　達足を實施す。

尋二以上　落合村懸腰山
尋一〃　仝　村天滿宮

五月八日　六年以上の男子を引率し源學校に集合他校兒童と共に植林地に到る。
六月廿九日　各教員受持兒童の家庭訪問をなす。
十月十日　御大典記念事業として御眞影奉藏庫建設を決定せり。
十月十九日　村長齋藤午吉、校長鮎川豊三郎齋戒沐浴し高等科二學年生四名を引卒し郡役所に出頭し天皇陛下の御眞影の御下賜を受け歸村す、村名譽職員、村役場吏員、在鄉軍人、青年會員、小學校職員、兒童村境まで出迎をなす。
十一月十日　今上天皇陛下御即位式擧行に付豊村民一同校庭に會し謹みて奉祝式を擧行す。夜は村民一同にて提灯行列をなす。
十一月十一日　兒童職員村内に旗行列をなす。
十一月十五日　大嘗祭に付(十四日を變更)臨時村祭を擧行し生徒職員參列す。
御大典記念樹を左の如くなす。

玄關兩側	松	二本

十一月十六日　第三教育分會合同尋四以上の奉祝旗行列を擧行す。
十二月十八日　甲府中學校に擧行する教育に關する御沙汰書捧戴式に左の教員出席を命せられたり。

鮎川、三井、小笠原、櫻井、手塚
大正五年一月一日　拜賀式擧行了りて本村青年會より寄附せられたる校旗樹立式を行ふ。
三月廿一日　御眞影奉安所を創設す。
三月廿六日　中巨摩郡聯合分會總會を本校に開く。

大正五年度

四月一日　始業式及入學式を擧行す。

		一	二	三	四	五	六	計
尋常科	男	六一	五三	四九	五〇	四四	四七	三〇四
	女	六二	六〇	四六	五四	五七	四四	三二二
高等科	男	三七	二二					五九
	女	八	一一					一九

四月三日　神武天皇祭遙拜式御眞影奉還式を擧行す。
四月十五日　遠足をなす

高學年	市川方面
中學年	藤田村方面
低學年	加々美方面

十月七日　遠足尋五以上龍王驛より韮崎、尋四以下御勅使川原歸校同一時刻。

十一月三日　立太子禮當日に付校庭に村民一同會し遙拜式をなし讓話萬歳奉唱をなす。
十二月十七日　大山公爵國葬當日に付哀悼式を擧す。
大正六年二月二日　鮎川校長、河野村長は郡役所に到り皇后陛下御影を捧戴し正午歸村し奉安す。
此日兒童職員名譽職員村民多數村境に出迎をなす。
二月廿五日　青年團總會を本校内に開き甲府聯隊副官沖久大尉の歐洲戰亂の原因經過及將來に關し講演を聽く。

大正六年度

四月四日　本學年より高等科を二學級に編成す。
四月十四日　遠足實施
尋一、二學年　藤田鏡中條
尋三、四學年　淺原より三川落合
尋五以上　市川大門町
七月四日　元本校訓導竹野正春先生葬儀に付職員一同兒童總代を引率して會葬す。
七月七日　野菜料理製菓法講習會を本校に開催す。
八月三十一日　午後一時より珠算講習會を開催講師鹽川研堂氏。
九月廿一日　山縣大貳先生祭典に付六學年生を總代として澤登、河野訓導引率參拜す。

十月六日　遠足實施
尋一、二　田之岡村長宣院
尋三、四　龍王村赤坂
尋四、五以上　甲府聯隊
大正六年二月二日　河野村長、鮎川校長同道本郡役所に出頭　皇后陛下の御影を拜戴し正午歸校す。
此の日村名譽職員、役場吏員、本校職員、兒童村境に奉迎せり。
大正七年三月廿一日　中巨摩郡聯合分會總會を本校に開催す。

大正七年度

四月一日　鮎川校長八田小學校に轉じ石原校長相川校より轉ず。
四月四日　豐成學舍役員會を開催す。
四月十七日　遠足擧行
高一、二男　尋五、六男　高尾長峰
高一、二女　尋五、六女　尋三、四男　龍岡村丸山
尋二男女　八田長谷寺
尋一男女　西野桃畑
九月五日　本學期中の級長副級長の任命をなす。

十月七日　補習學校始業式を擧行す。

十月三十日　三百五十名翌三十一日は二百七十八名の流行性感冒欠席兒童を生じ、尚益々蔓延の兆ありしにより防疫上必要と認め十一月一日二日臨時休業に決す。

十月十八日　遠足

尋四男以上　高尾山方面

尋四女三男女　青根

十二月廿日　本村出身歩兵二等兵名取義富君流感にて死去本日葬儀に付職員會葬す

大正八年二月七日豊村婦人會創立總會を開催す。

三月六日　本日より四日に渉り入學兒童の個性並に身体檢査を行ふ。

大正八年度

四月四日　兒童を引卒し小笠原座に於て世界大戰亂活動寫眞を觀覽す。

四月十四日　保護者會を開催授業參觀並に懇談をなす。

四月十九日　遠足實施

尋一、二　小笠原

尋三、四　尋五、六女　第二發電所

尋五、六男　高一、二女　第一發電所

四月二十日　農會創立總會を開催す、

五月七日　皇太子殿下御成年奉賀式を擧行す。

五月九日　凱旋兵士保坂竹治郎君を尋六以上の兒童村境まで出迎をなす。

五月二十九日　農林學校生徒四十名來村學校に立寄り晝飯をとる。

七月一日　歐洲大戰平和克復講和奉祝式を擧行す(全村を旗行列)

十月十二日　中巨摩郡聯合分會主催本郡凱旋兵士歡迎會を本校に開催す。

十月十九日　消防協會小笠原支部發會式を本校々庭に擧行す。

大正九年二月二十五日　青年團補習生の武道寒稽古納會を開催す。

大正九年度

四月十九日　遠足實施

一年　鏡中條長遠寺

二、三、四年　淺原橋

五年以上　乙黒

七月一日　豊尋常高等小學校及豊農業補習學校標札を飯田郡長揮毫し取付けたり。

七月十三日　薫座に於ける第三分會主催口腔衞生講演會に尋四以上引卒聽講す。
八月九日　本校内に民力涵養講演會を開催し講師細川風谷氏活動寫眞をも使用す。
大正十年二月十三日　豊村消防出始式並に消防後援會發會式を擧行す。
三月三日　東宮殿下御渡歐の爲横濱港御出發に付遙拜式を擧行祝意を表す。
三月三十日　石原校長、小笠原訓導宮城を拜觀す。

大正十年度

四月十四日　第三教育分會主催講演會を擧行す、講師甲府聯隊區司令部付中野中佐殿
四月十六日　遠足
尋一、二　小笠原一ノ宮
尋三以上　縣腰山
尋五以上　發電所
四月十七日　石原校長西山梨郡視學に轉任す。
四月二十五日　秋山福三本校々長に任せらる。
五月十日　時の記念日に付時間に對する訓話をなす。
八月二十六日　蠶業講演會開催太田本縣技師
九月三日　皇太子殿下御歸朝に付き奉祝式を擧行す。

十月三日　小使室同居人にチブス患者發生したるに付校内の大消毒を施行す。
十月二十五日　學校創立記念式後青年團團旗樹立式を擧行す。
十一月八日　遠足實施
尋一、二　榊村曲輪田諏訪神社
尋三以上　同　傳嗣院
尋六以上　學校樹栽地(太平山)

大正十一年一月二十九日　文學士三井甲之氏を聘して教育講演會を開催す。
二月九日　山縣公爵國葬につき兒童に訓話し休業す。
二月二十八日　故伊久井訓導葬儀に付職員兒童會葬し職員並に兒童總代弔詞を呈し佛具、石燈籠一基を靈前に供ふ。
二月二十四日　兒童特別考査を施行す。

大正十一年度

四月二十一日　遠足
尋一、二　大井村江原まで
尋三、四　妙了寺まで
尋五以上　縣腰山神平山

四月廿六日　御來朝中の英皇太子殿下の御略歷につき訓話す。
七月三日　東伏見宮依仁親王殿下御葬儀につき兒童に訓話す。
九月十八日　本村出身深澤定一（歩兵二等兵）葬儀に付職員總代會葬す。
十月五日　皇太子殿下奉迎のため職員出市す。
十一月六日　遠足實施
尋一、二　桃園
尋三、四、五女　御勅使川
五男　尋六　武田神社
高一、二　千代田村方面
大正十二年一月十五日　豊信用組合總會を本校内に開く。
一月三十日　新任縣立第三高等女學校長荻野素助氏來校し挨拶並に假校舍問題打合せをなす。
二月十四日　故伏見宮殿下國葬につき謹みて休業す。
三月二日　村松清訓導葬儀に職員生徒總代會葬す。
大正十二年度
四月四日　第三高等女學校入學式を本校講堂に於て擧行し本校北二教室に入れたり。
四月廿日　遠足實施

四月廿八日　中巨摩郡農會主催講演會を本校に開く、講師山下信義氏「人生の四大要件」
六月廿八日　午前十時より職員一同山邊川邊の兩方面に分れ植物採集に出發せり。
九月一日　大地震頻々として起る本村は幸被害少なかりしも隣村は甚大なるところあり。
九月廿六日　震災義捐金を募集し納付す。
九月廿九日　去る十二日の御下賜詔書を奉戴式を擧ぐ。
十月十四日　本郡青年團總會を開催す。
十二月四日　學務委員（前村長）小笠原寛氏葬儀に付職員一同會葬し靈前に花環を備へ校長弔詞を述ぶ
大正十三年一月廿六日　皇太子殿下良子女王殿下御成婚奉祝式を擧行す。
二月十七日　職員生徒總代祈年祭に參拜す。
大正十三年度
四月六日　豊村教育總會を開催し加藤文學博士の講演を聞く。
四月七日　秋山福三校長退職し、高瀬信本校校長となる。
四月二十六日遠足
尋六男　高一、二　韮崎方面
尋六女　五、四　落合方面
尋二、三　藤田方面

尋　一　　明穗方面

七月十二日　故松方公國葬につき訓話す。

八月十六日　本校に於て青年團主催妹尾義郎氏の講演會を開く。

十一月三日　遠足實施

尋一、二　　榊村方面

尋三、四　　野々瀬村

尋五以上　　增穗村方面

十一月十日　國民精神作興詔書奉讀式を行ふ。

十一月十三日　一木義三郎翁の講演を聞く。

大正十四年二月廿七日　來年度入學兒童の身体檢査を行ふ。

大正十四年度

四月十六日　遠足實施

尋五以上　　高尾山

尋三、四　　縣腰山

尋一、二　　將監堤

五月十日　兩陛下御結婚滿二十五年祝賀式を擧行す。

九月廿七日　本校々庭に於て第三聯合青年團陸上競技會を行ふ。

十一月　遠足實施

十二月七日　皇孫內親王殿下御生誕に付神社前にて奉祝の意を表す。

大正十五年二月　本校々庭に於て消防組出初並に金馬簾披露式を擧ぐ。

三月廿五日　尋六高二卒業生長野縣諏訪湖方面に修學旅行をなす。

大正十五年度

五月一日　遠足實施

七月四日　青年訓練所入所式を擧行す。

十月十三日　第三支會兒童競技會に出場す。

十月廿二日　長慶天皇御列代親告祭につき臨時休業す。

十一月一日　遠足實施

十二月十一日　天皇陛下御病氣御平癒の祈願式をなす。

十二月廿五日　午前一時廿五分御崩御謹みて遙拜式を擧げ哀悼の意を表す。

（大正と改元す）

昭和二年一月廿六日　今上天皇陛下踐祚后朝見の儀に於て賜はりたる勅語の奉讀式を行ふ。

三月十四日　米國より寄贈に係る人形歡迎會をなす　（十六日受領）

昭和二年度

四月廿八日　左記之通り春季遠足擧行

尋一、二	鏡中條村將監堤	
尋三、四	龍岡村	
尋五以上	旭村	

六月五日　理髪師佐久間清來校兒童の理髪を行ふ。

昭和二年六月七日　本日より本縣衞生課員出張本村住民の保健狀態調査の爲め糞便檢査を行ふ。

九月十日　本日午前四時四十二分內親王殿下御降誕遊ばされたるに付き皇室に關する謹話をなし奉祝の誠意を表す。

十月十一日　本村出身海軍機關中佐齋藤一治氏を聘し海軍思想日米關係につき講演會をなす。

十一月四日　遠足を實施す。

尋一、二	榊村	
尋三、四	源村方面	
尋五、六	市川方面	
高一	小宮山	
高二	新府城趾	

十二月十二日　本校々庭に青年訓練査閲を行ふ。

十二月廿五日　大正天皇第一年祭を擧行す。

昭和三年三月十三日　故久宮祐子內親王殿下御葬儀につき訓話をなし吊旗を掲揚す。

昭和三年度

四月二日　始業式並に入擧式擧行。

尋	男三五五	高	男一〇六	
女三〇六		女 四七		計八一二

前年度末日高瀨校長大明小學校に轉任し有泉校長鏡中條小學校より轉任す。

四月二十七日　遠足左記之通り實施す。

尋一、二	榊村傳嗣院
尋三、四	野々瀨村方面
尋五以上	豊和村方面

四月二十九日　天長節遙拜式擧行式後軍人分會の思想問題につきての宣誓をなす。

五月一日　神社參拜をなし社頭訓話を行ふ。

六月三日　有泉校長外職員十三名靜岡方面に學事視察をなす。（一泊）

六月二十一日　齒科校醫出勤齒牙衞生講話及清淨教練を行ふ。

七月九日　音樂會を開催す。

七月十一日　記念館移動のため教室を次の如く變更し使用す、尋六男は尋一東に尋六女は尋一西に尋五女は尋二東に尋一、二、四學級は林間教授とす。

七月十三日　尋五以上の兒童職員にて釜無川原より砂を運搬す。

七月二十日　第一學期終業式にあたり努力賞を授與す。

八月二十一日　校舍增築のため左の如く假教室を使用す。

尋三男　澤登公會堂

尋三女　神社拜殿

尋四男　上今井公會堂

尋四女　十五所公會堂

八月二十五日　休暇中の兒童創作品展覽會を開催す。

九月二日　職員有志二十一名櫛形登山をなす。

九月二十九日　校舍增築上棟式擧行。

十月十日　本明日行はる靑訓合同（郡下）演習に當り本村に村落露營をなす。

十月十七日　遠足擧行

尋一、二　今諏訪村方面

尋三、四　御影村

尋五以上　甲府市展覽會　山梨高工

十月二十日　午前九時より縣會議事堂に於て天皇皇后兩陛下御眞影御下賜拜戴のため花輪村長、有泉校長出頭す。

この日職員、兒童、村名譽職員、村內各種團体、村民多數村境に出迎へ無事奉安す。

十一月三日　明治節拜賀式擧行

十一月十日　即位式拜賀式を擧行し夜提灯行列をなし、御大典を奉祝す。

十一月十六日　有泉校長、須田訓導地方饗饌に參列す。

十二月二日　兒童菽類一坪農業品評會を開催す。

十二月十四日　有泉校長御親閱參列のため上京す。

昭和四年一月十一日　第三學期始業式擧行後新校舍に移轉し假校舍を引拂ふ。

一月十三日　寒稽古を開始す（二十二日納會）

二月三日　久邇宮殿下御葬儀當日に付き吊旗を揭揚す。

二月十七日　神棚を設け祭神式を擧行す。

三月十七日　本村軍人分會陸軍大臣表彰祝賀式を本校に擧行す。

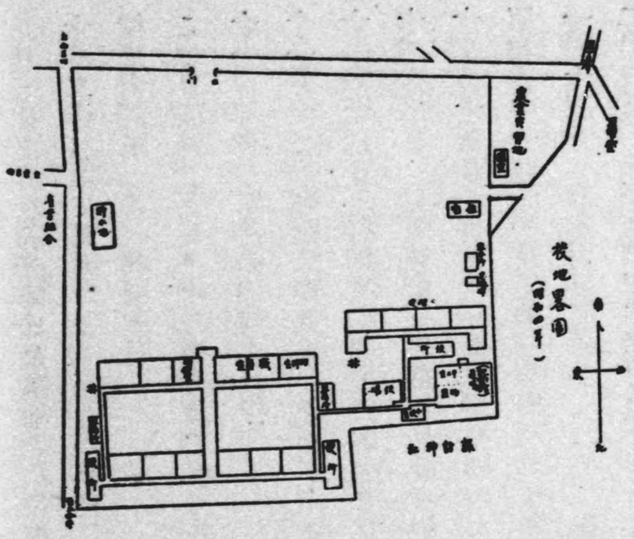
仝日より三日間の豫定にて高二卒業兒童を荻野、深澤、鈴木、山本、清水五訓導引卒し伊勢大廟の參拜をなす。

三月二十五日　箭本、須田、笹本三教員引卒尋常科六學年兒童を東京神奈川方面に修學旅行をなす。

昭和四年度

四月一日　校訓「誠實」を制定す。

四月三日　本村青年團主催にて本校に縣下青年團雄辯大會を擧行す。



四月十五日　尋六以上の兒童を引卒し甲府聯隊軍旗祭見學飛行機操縱參觀をなす。

左の如し助成金辭令あり

豐尋常高等小學校訓導　荻野利一

敎育研究成績見ルヘキモノアリ仍テ助成金四拾圓ヲ交附ス

昭和四年三月二十日　山梨縣

四月二十一日　兒童成績品及び青年團主催書道及び女子青年團主催手藝品展覽會を開催す。

四月廿一日　增築校舍落成式及祝賀會を擧行し夜青年團主催音樂會を擧行す。

五月二日　兒童拔齒治療をなす（尋二以上）

五月三日　清水儀三郎氏を講師として齒科衞生講演會を開く。

五月四日　遠足實施

尋一、二　桃園方面

尋三、四　玉幡、龍王方面

尋五以上　榊村植林地

五月三十一日　有泉校長外職員長野縣下へ學事視察をなす。（高島小學校參觀）

六月廿一日　健齒表彰式を擧行す。

八月廿日　高等等兒童五十名を引卒し櫛形山登山をなす附添荻野、須田、鈴木三訓導

九月三十日　內親王殿下御降誕謹みて祝意を表す。

十月二日　神宮式年遷宮遙拜式を擧行す。

十月十日より一週間運動場工事にあたり男女青年團、消防組軍人分會全員勤勞奉仕をなす。

十一月九日　遠足實施

尋一、二　野々瀨村

尋三、四　榊村

尋五以上　小室山

高二男　新府城趾

十一月十日　前校長小笠原同候先生葬儀に付き職員生徒總代會葬す。

十二月二日　神荷栽培品評會賞狀授與式擧行。

昭和五年三月十一日　巨摩高等女學校本科四年生及補習科生百十名矢澤外三教授引卒授業參觀をなす
三月十三日　高二兒童二十九名荻野、鈴木、池谷の三訓導引卒のもとに神奈川、江の島、鎌倉方面に修學旅行をなす。
三月十七日　尋六兒童三十四名箭本、須田、麻生三訓導引卒のもとに多摩御陵に參拜修學旅行をなす
三月卅日　助成金を左記の如く交附さる

其ノ校ニ於ケル施設經營優良ナリト認ム仍テ助成金五拾圓ヲ交附ス
昭和五年三月廿九日
豐尋常高等小學校
山梨縣

昭和五年度
四月三日　青年團主催にて農村振興活動寫眞會を實施す。
四月十九日　遠足實施
高學年（尋五以上）　甲府市　縣廳舍祝賀展覽會
中低學年（尋四以下）　鏡中條方面
七月九日　東京高師講話會員三名來校童話を聽く。
十月十七日　有泉校長長野市に開催せる關東聯合教育會に代議員として出席。
十月廿五日　第五十五回創立記念式擧行の後運動競技會を開催す。
本年は村經濟事情に鑑み兒童服裝は平素のまゝなるに留意し教育會費は徵收せず名譽職員の寄附金三十圓にて行ふ。

十一月三日　明治節拜賀式擧行式後各種團体、合同村民体育日を實施す。
十一月十三日　遠足實施
十一月廿一日　昭和四年度職員に對し村より感謝狀（木杯）並に記念品を授與せらる。
昭和六年一月九日　青年團主催修養講座を開設す。　講師若尾金造氏
二月六日　實業教員養成所長田主事生徒八名を引卒參觀をなす。

昭和六年度
四月一日　本日より氣象觀測を實施す。
四月十三日　御眞影奉還のため有泉校長は保坂助役長坂巡査と共に山梨縣正廳に出張す。
村名譽職員、各種團体員、職員、兒童戸田街道迄見送りをなす。
四月十八日　御眞影拜戴のため保坂助役長坂巡査と共に有泉校長登廳し　天皇皇后兩陛下の御眞影を拜戴し無事歸校奉安す、小學校職員、兒童、村名譽職員、各種團体員村境に奉迎す。
四月廿五日　春季遠足を行ふ。
四月廿九日　天長節拜賀式の後大國旗樹立式並に菅公安置の式を擧ぐ。
七月一日　有泉校長、名取主任指導員青訓表彰を受く。
八月四日　福田本縣知事來村本校參考室に入り政治、教育、產業の實情を聽取し校内を視察す。
九月十三日　午前五時より一時間乃木會を行ふ。

十月十二日　村敎育會及び補習學校始業式同窓會發會式を擧ぐ。
十一月九日　產業組合主催清水及衞先生の農家經營の講演會を聽く。
十一月十四日　遠足實施
十一月廿日　支會同學年研究會を本校に開催す。
十二月四日　久保中佐を聘し尋五以上の訓練の査閲を受け滿蒙問題の講演を聽く。
昭和七年二月四日　櫻林孝三氏動員召集につき職員、兒童告別式に列し見送りをなす。
二月十四日　師範學校主催武道大會に飯久保、齋藤、分部三訓導高等科選手を引卒し柔道に優勝旗を授與せられたり。
三月廿八日　齋藤豊二郎氏出征につき職員生徒見送りをなす。
三月十日　陸軍記念日につき校長訓話をなし野外少年團敎練をなす。
三月十九日　大井村出身北村伍長村葬に有泉校長生徒總代會葬す。
三月廿二日　高二尋六卒業兒童甲府市方面に遠足をなし聯隊、試驗場、新聞社を見學す。
昭和七年度
四月廿一日　遠足を行ふ
尋一、二　鏡中條
尋三、四　藤田、三惠

尋五以上　落合村神平
四月廿六日　靖國神社臨時大祭に付訓話を行ふ。
五月六日　齋藤豊二郎氏凱旋に付出迎をなす。
五月十二日　故陸軍上等計手三木辰巳氏村葬に有泉校長生徒總代參列す。
七月九日　三惠村戰死者河西上等兵の村葬につき校長生徒總代會葬す。
七月二十日　校内に於て村主催不況對策協議會あり。
八月廿一日　高一、二男組精進湖方面にキャンプ旅行をなす。飯久保、齋藤、下條三訓導引率。
十月六日　故入倉伍長の村葬に校長生徒總代會葬す。
十月十九日　青年團創立二十週年記念式及講演會を本校に開催す、講師狛社會敎育主事。
十一月五日　遠足
十一月八日　榮養改善學校給食を開始す、（兒童七人）
十一月廿二日　澤登惣藏氏凱旋に付村境まで職員生徒出迎ふ。
昭和八年二月廿五日　令書記念式並に凱旋祝賀式を擧行す。
三月廿一日　高二兒童約六十名飯久保、溝口、齋藤、分部四訓導引率身延山に修學旅行をなす。
昭和八年度
五月三日　遠足を行ふ

五月五日　凱旋兵士花輪茂豊氏を全校兒童職員にて村境まで出迎ふ。
五月廿七日　龍王小學校に於ける國際聯盟離脫の詔書傳達式に村長、校長出席し拜戴歸村す。
六月五日　滿洲自衞移民保坂伊三郎氏の出發につき諏訪神社の送別式に臨み職員兒童見送をなす。
六月六日　關屋本縣知事本村養蠶狀況を視察す。
七月五日　河野幸雄氏凱旋に付き職員兒童出迎をなす。
七月十五日　青年團主催國際聯盟離脫に關する詔書捧讀式に村民多數集合本校內に擧行す。
八月廿八日　山葉ピアノ堅型の寄附を受く。
九月廿九日　一木義三郎氏の修養講演あり。
十月廿九日　故功刀佳明兵曹の村葬に有泉校長會葬す。
十月三十日
辭令　山梨縣公立小學校長　有泉二朔
高等官八等ヲ以テ待遇セラル
昭和八年十月二十三日
十一月八日　遠足實施
十一月廿一日　私設觀測所認可を申請す。
十二月廿一日　名取富平、名取茂樹兩氏の凱旋を職員兒童にて出迎をなす。

十二月廿三日　本日午前六時三十九分
皇太子殿下御降誕につき奉祝式を擧行し校長訓話の後村民各種團体と共に旗行列をなし、滿腔の祝意を表す。
十二月廿七日　凱旋兵士四名の歡迎式に職員生徒總代參列す。
大正九月一月廿一日
辭令
叙正八位
有泉二朔
昭和八年十二月一日
宮內大臣正三位勳一等　湯淺倉平
二月廿五日　修學旅行尋六（溝江、花輪、下條）東京方面
高二（齋藤、飯久保、內田）江の島方面に出發す。

昭和九年度

四月三日　左記職員五名小學校敎員代表として宮城前廣場に於て御親閱を受く。
校長　有泉二朔　訓導荻野利一　訓導小田切孔　訓導飯久保正直　訓導溝江德明
四月廿二日　甲府中學校講堂に於て御親閱の際小學校敎育に從事するものに御下賜せられたる勅語奉讀式に左記職員參列す。

訓導　下條長壽　導訓　齋藤　亘　訓導　矢田　嚴
仝　木村一雄　仝　雨宮武子　仝　保坂すみえ
仝　前島米子　仝　奈良千枝子　准訓導　築野としえ
代用教員　名取久良

四月廿三日　左記の如く　遠足各受持職員附添ひの上擧行
尋一、二　鏡中條、三惠方面
尋三、四　落合、野々瀨方面
尋五、六　平林、落合方面
高一、二　新府城趾方面

五月四日　赤十字社總裁閑院宮殿下身延詣につき沿道に職員兒童奉送迎を行ふ。
六月五日　東郷元帥國葬當日に付遙拜式並に訓話を行ふ。
七月二日　師範學校第一部生徒二十五名橋田教諭、秋山訓導引率のもとに終日參觀せらる。
八月廿一日　高二男兒童を齋藤、下條、木村三訓導引率のもとに精進湖方面にキャンプ旅行をなす。
九月三十日　村經濟更生部八ヶ岳移住地視察團に有泉校長參加出張す。
十一月六日　遠足を左記の通り實施す。
尋一、二　榊村傳嗣院

尋三、四　源、田之岡方面
尋五、六　丸山高尾山
高一、二　御嶽

十二月十六日　本校に於て中巨摩郡下男女青年團施設經營に關する研究會擧行す。
昭和十年二月廿三日　山梨縣初等教育讀方科協議會延長事業たる實地授業研究會を本校に開催す。
二月廿六日　修學旅行を左記の如く實施す。
尋六卒業兒童　東京方面（荻野、下條、木村）
高二卒業兒童　鎌倉方面（齋藤、花輪、飯久保、名取）
三月三日　中巨摩郡聯合分會總會を開催す。

昭和十年度

四月十二日　凱旋兵士騎兵上等兵小泉義幸氏歸郷につき職員兒童村境まで出迎へをなす。
四月廿一日　青年團主催軍人分會後援のもとに本校記念館に武道大會を開催す。
五月六日　尋常科一學年のみの保護者會を開催す。
五月廿五日　大楠公六百年祭につき訓話及資料展覽會を催す。
七月六日　本郡聯合教育會主催施設經營研究會及第三支會教授法研究會を本校に開催す。
七月十九日　海軍現役歿軍人二等機關兵曹齋藤義磨氏葬儀につき職員全部會葬す。

八月二十三日　豊村立農業青年學校學則認可せらる

八月廿四日　村選擧肅正委員會を本校内に開催す。

十一月一日　熱田神宮本殿遷座祭につき訓話をなし遙拜式を擧行し臨時休業とす。

十一月九日　遠足實施

十一月廿日　實習用温室を建設す

十一月廿八日　本日午前七時七分　親王殿下御誕生に付訓話をなし奉祝す。

十二月八日　本村青年團文部省より表彰されたる披露式を本校々庭に開催す。

十二月三十日　助成金辭令左の如し

豊尋常高等小學校訓導　飯久保正直

教育研究ノ成績見ルベキモノアリ仍テ助成金拾五圓を交付ス

昭和十年十二月三十日　山梨縣

昭和十一年二月一日　青年學校女子部晝間教授を本日より一ヶ月間實施す。

二月廿五日　第六回選奬記念式及國稅完納三十ヶ年表彰狀傳達式を本校々庭に開催す

三月十日　凱旋兵士功刀德太郎、齋藤範治、澤登進一三氏歸郷につき職員兒童出迎をなす。

三月十日　卒業兒童の修學旅行をなす。

尋六　東京方面（附添　飯久保、伊藤、小田切、奈良四訓導）

高二　鎌倉方面（附添　荻野、矢田、齋藤、前島四訓導）

昭和十一年度

四月一日　始業式及入學式を擧行す。

在籍生徒數　尋　男三四〇　女三二七　高　男九七　女五五　計八一九

有泉校長八田小學校に轉じ、原校長任命せらる。

四月七日　第一學期級長副級長任命をなす。

四月九日　豊村防護團結成式を本校々庭に擧行す。

四月十一日　尋常科五學年入學兒童の記念撮影をなす。

四月廿一、廿二日　山梨縣全体に實施せらるゝ防空演習に當り本校を豊村防護團本部に充つ。

四月廿八日　渡滿すべき本村出身歩兵第四十九聯隊兵士の慰問のため原校長出張す。

五月八日　遠足を左の方面に行ふ

尋一、二　鏡中條、三恵方面　尋三、四　野々瀬村妙了寺

尋五、六　榊村穂見神社　高一、二　新府城趾

五月廿九日　樞密顧問官上山萬之進、土屋本縣知事兩閣下蠶業視察の爲來村、參考室に休憩村情を聽取す。

六月五日　養蠶繁忙兒童蠶休を利用し、託兒所を設け十五日まで經營す。

終了式に當り　授賞兒一五一名あり。

六月二十七日

辭令　　山梨縣公立小學校長　　原　　清

陞シテ高等官七等ヲ以テ待遇セラル

昭和十一年六月一日　　内　　閣

七月一日　各兒童に神稻苗を配布す。

七月七日　中巨摩郡敎務研究部總會を本校に開催す。

八月一日　本日より一週間山梨縣農務課主催第三支會後援の手工科竹細工講習會を本校に開催す。

八月二十八日　龍王村出身戰死者中村正義氏村葬につき原校長會葬す。

八月二十九日　平林村出身神田秀雄氏戰死葬儀につき校長會葬す。

九月十七日　本日より十月九日迄山梨縣警察部衞生課事業として本校兒童に對し知能テスト身體檢査檢便を實施せらる。

九月十八日　滿洲事變五週年記念日につき訓話をなし在滿本村出身兵士に慰問文を送る。

九月二十三日　彼岸中日につき職員兒童代表忠魂碑學校關係物故者及逝去兒童の墓參をなす。

九月二十九日　左記の通官記送達あり

正八位勳八等　　原　　清

叙從七位

昭和十一年六月十五日　　宮内大臣從二位勳一等　松平恒雄宣

十月七日　本村十五所出身現役病歿兵士澤登壽次君葬儀に職員及生徒總代會葬す。

十月三日　本校々庭に於て山梨縣青年學校敎練指導査閲を實施す。

受閲校　　豊、藤田、押原、三青年學校

學級數、教員數、在籍生徒數、卒業者數、經費年度別表

年	學級數	教員數	兒童數					卒業者數				經費		
			尋男	尋女	計	高男	高女	計	尋男	尋女	計	豫算總額	一戶平均	兒童一人當
												円		
明治九	二	二												
〃一〇	二	二												
〃一一	二	二												
〃一二	二	二												
〃一三	三	三												
〃一四	三	三												
〃一五	三	三												
〃一六	四	四												
〃一七	四	四			一六二							四一九		
〃一八	四	四			一八七							四四二		
〃一九	四	四			二二三							四四八		
〃二〇	四	四			一八七							三九四		
〃二一	四	四												
〃二二	四	五												

明治二二	四	五	一七四	三五	二〇九											二九八
〃二三	四	四														
〃二四	四	五			二三八											
〃二五	四	五			二〇三											
〃二六	四	五			二一〇											
〃二七	五	五			二五一											
〃二八	四	五			二七四											
〃二九	四	五	一八九	一〇一	二九〇	三二	八	四〇				四〇	五一四			
〃三〇	四	四	一七一	一二四	二九五	三五	七	四二				四二	五七四	一、〇九	一、九四	
〃三一	四	四	一六二	一一七	二七九	六一	一四	七五				七五	七二八	一、一五	二、三九	
〃三二	四	四	一四六	九五	二四一	四一	一九	六〇				六〇	七二八	一、四〇	二、六〇	
〃三三	四	四	一五二	一三	二七三	三三	二六	五九				五九	七七五	一、三七	二、八四	
〃三四	四	四	一七一	一三三	三〇四	三七	一八	五五				五五	一、一〇	一、九八	三、六八	
〃三五	六	六	一九九	一六五	三六四	四〇	二三	六三				六三	一、三五五	二、一五八	四、〇六	
〃三六	七	七	一七三	一七七	三五〇	三三	六〇	九三				九三	一、三六九	二、一八	三、九一	
〃三七	七	七	一八一	一六〇	三四一	四八	三六	八四				八四	一、二九三	二、〇九	三、七九	

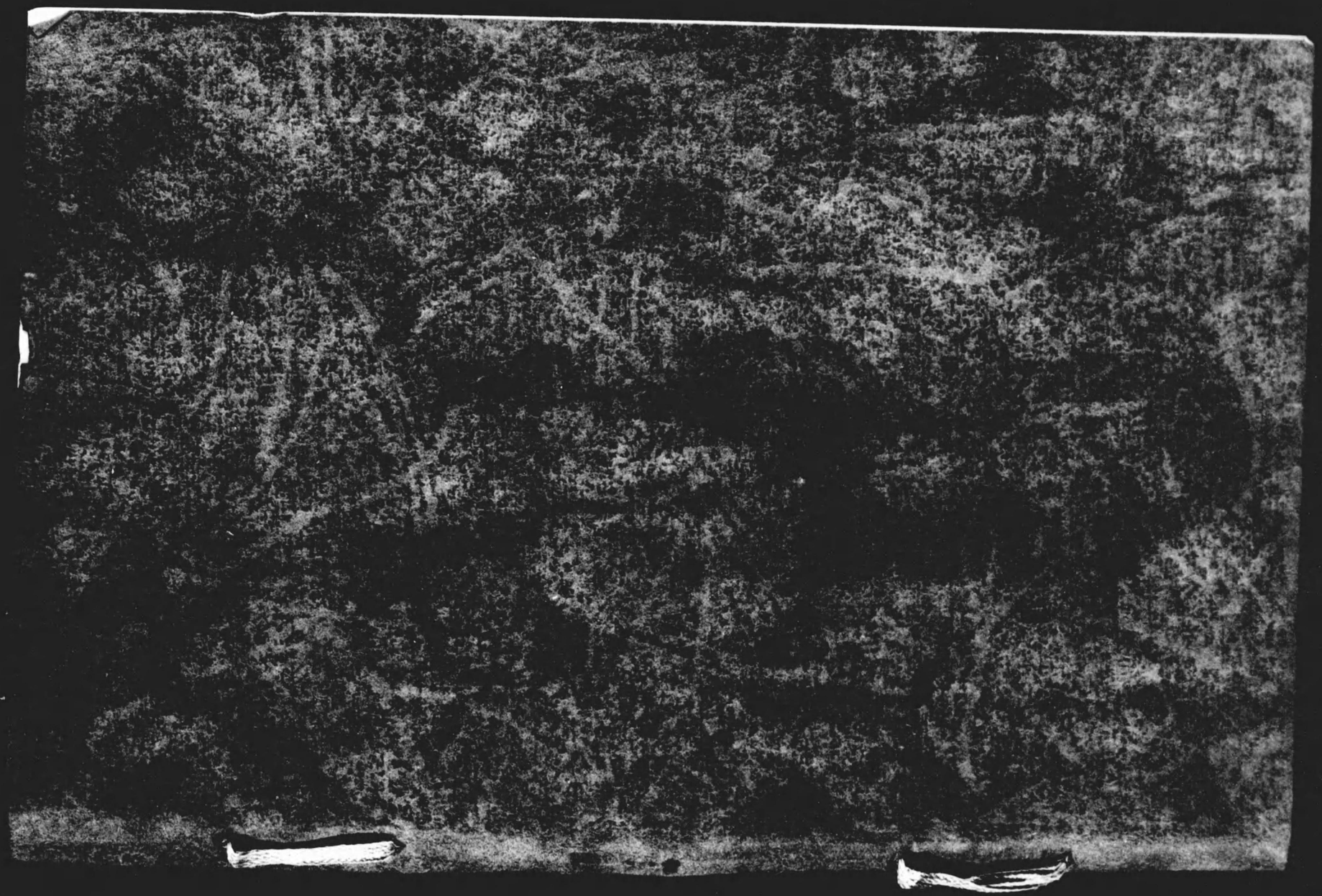
明治三八	七	七	一六八	一七六	三四四				三四四	四六	四三	八九				八九	一、四八九	二、四〇	四、三三
〃 三九	七	七	一六六	一七六	三四二				三四二	四〇	四三	八三				八三	一、四七七	二、三八	四、三三
〃 四〇	七	七	一七五	一八七	三六二				三六二	四三	二四	六七				六七	二、六九〇	一八、八五	三二、二九
〃 四一	九	九	七七二	三二一	三九三	一〇六	三	一二七	五二〇	二八	八	三六	一三	二	一五	五一	三、一七五	四、四九	六、五三
〃 四二	三	三	二六〇	二八二	五四二	四五	一〇	五五	五五七	三八	二	四〇	一五	五	二〇	六〇	三、二六九	四、七〇	五、四八
〃 四三	三	三	二九九	三一三	六一二	三七	五	三二	六五三	三六	五三	八九	一三	四	二六	二五	三、五三二	四、九七	五、三〇
〃 四四	三	三	二七八	三一六	五九四	三六	三	四八	六四二	三九	二九	六八	一四	一	一五	八三	三、六八八	五、一八	五、六一
〃 四五	一三	一三	二八二	三二九	六一一	三八	一九	五七	六六八	四三	二九	七二	二	一〇	一三	九三	三、七八三	五、〇三	五、二六
大正 元 二	三	一三	二九五	三二二	五一七	四九	一二	六〇	六七七	四三	二三	六六	一八	五	二三	八九	三、一五五	四、三四	四、六一
〃 三	三	一三	二九一	二八九	五八〇	四八	一三	六〇	六四〇	三五	三六	七二	一三	五	二七	九八	三、一三四	四、三二	四、九〇
〃 四	一三	一四	三一九	二九一	六一〇	四三	一七	六〇	六七〇	五九	三七	九六	二〇	五	二五	三	三、四五九	四、八五	五、一六
〃 五	一三	一四	三〇三	三三四	六二七	五九	一九	七八	七〇五	四七	四二	八九	一七	二	二八	一一七	三、七六八	五、二八	五、三三
〃 六	一四	一五	三一二	三三二	六四四	六五	三	八七	七三二	四二	五二	九三	二四	七	三一	一二四	三、八二六	五、三七	五、二五
〃 七	一四	一五	三一九	三三四	六五三	六八	三〇	九八	七五二	四八	四五	九三	三〇	一四	四四	一三七	四、四八八	七、三一	六、九七
〃 八	一四	一五	三二三	三五一	六七四	七五	三〇	一〇五	七七九	四八	四三	九二	二八	一三	四〇	一三	五、九九五	八、四九	七、七〇
〃 九	一四	一五	三〇二	三六二	六六四	七六	二九	一〇五	七六九	五二	五〇	一〇二	三六	一四	五〇	一五一	一〇、六七三	一五、一一	一三、八九
〃 一〇	一四	一五	三一八	三五八	六七六	七九	三五	一一四	七九〇	五二	五九	一一〇	二八	一三	四一	一五一	一〇、三三一	一四、五一	一三、九五
〃 一一	一四	一五	三一〇	三四八	六五八	八六	四二	一三七	七八五	五三	五三	一〇四	四二	一五	五七	一六二	一〇、五四五	一五、〇四	一三、四三
〃 一二	一四	一五	三三三	三四八	六八一	八二	四三	一三五	八〇六	四七	五二	九八	三六	一〇	五六	一五四	一〇、六八二	一五、一五	一三、二五
〃 一三	一四	一五	三三二	三四三	六七五	八三	三四	一一七	七九二	四八	五九	一〇七	三六	一六	五三	一五九	一一、一〇五	一五、六二	一四、〇一
〃 一四	一四	一五	三四六	三三七	六八三	八八	四五	一三三	八一六	三六	六二	九八	四〇	一六	五六	一五四	一一、五三二	一六、一四	一四、一三
〃 一五 元	一四	一五	三五八	三三六	六八四	七四	五四	一二八	八一三	六八	六二	一三〇	四二	二三	六五	一九五	一一、八七五	一六、四五	一四、六三
昭和 二	一五	一六	三五五	三一〇	六六五	九〇	五四	一二四	八〇九	五四	五三	一〇六	二六	三	四八	一五四	一三、一二四	一六、五四	一四、九九
〃 三	一五	一六	三五四	三〇六	六六〇	九五	四四	一三九	七九九	七二	五六	一二八	五〇	二三	七三	二〇一	一三、一八七	一六、四九	一五、二五
〃 四	一五	一六	三三二	二九〇	六二二	一一〇	四五	一五五	七七六	四五	五二	九七	四四	一七	六一	一五八	一三、七四六	一七、四一	一六、六四
〃 五	一五	一六	三四六	二九六	六四二	九九	五〇	一四九	七九一	六四	五五	一一九	五九	二八	八七	二〇六	一二、八五七	一五、八五	一四、九九
〃 六	一五	一六	三四四	三〇四	六四八	八八	五四	一四二	七九〇	四二	五四	九六	三五	二四	五九	一五五	一三、〇一〇	一六、一三	一五、二三
〃 七	一五	一六	三四二	二九九	六四二	八三	五八	一四一	七八三	六三	四二	一〇五	四八	二八	七六	一八二	一二、七二三	一五、七二	一四、八四
〃 八	一五	一六	三五七	三一〇	六六七	八〇	五〇	一三〇	七九七	五〇	四八	九八	三三	二五	五七	一五五	一二、七一七	一五、七一	一四、九八
〃 九	一五	一六	三四三	三〇七	六五〇	八九	四七	一三六	七八六	四四	四〇	八四	四四	二〇	六四	一四八	一三、〇四〇	一六、二五	一五、三三
〃 一〇	一五	一七	三五三	三二一	六七四	七八	四二	一二〇	七九四	七四	五二	一二五	四二	三	六二	一八七	一三、〇二七	一六、一三	一六、〇六
〃 一一	一五	一七	三四〇	三二七	六六七	九七	五九	一五二	八一九								一三、一〇三	一六、三三	一五、九〇

338
1173

創立以來ノ卒業生

尋　男二一七九　女一七二五　三九〇四
高　男八七一　女四一〇　一二八一　五一八五

昭和十一年十月二十日印刷
昭和十一年十月廿五日發行

山梨縣南巨摩郡青柳
編輯兼發行人　原　清
甲府市堅近習町十六番地
印刷所　深澤印刷所
甲府市堅近習町十六番地
印刷人　深澤淺吉

發行所　山梨縣中巨摩郡豐村尋常高等小學校